

<p>4 北工一車</p> <p>① 支持地盤等</p> <p>・杭基礎 支持層の位置及び土質(基礎ぐいの先端の位置含む) ・図示による()</p> <p>② 直接基礎 支持地盤の位置及び土質(基礎底部の位置含む) ・図示による(S-08) 試験掘り(掘切り底の状況の確認等) ・行わない</p> <p>③ 行う 位置等 ・図示による(S-10)</p> <p>・地盤の載荷試験 載荷試験の方法等 ・図示による()</p> <p>種類 ・遠心力高強度プレストレストコンクリート杭 (PHC杭) ・プレストレスト鉄筋コンクリート杭 (PRC杭) ・外殻鋼管付きコンクリート杭 (SC杭) SC杭の鋼管材料 ・SKK400 ・SKK490</p> <p>寸法、継手、性能等 (種別・種類、性能及び曲げ強度区分) (4.2.2)(4.3.3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>コンクリート強度(N/mm²)</th> <th>鋼管厚(mm)</th> <th>杭径(mm)</th> <th>杭長(m)</th> <th>継手数</th> <th>セツ数</th> <th>長期設計支持力(kN/本)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>試験杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>本杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>杭先端部形状 ・開放形 ・半開放形 ・閉そく形</p> <p>・セメントミルク工法 試験杭 試験杭の位置 ・図示による() 密閉深さ ・図示による() 杭の支持層への根入れ深さ ・図示による() 杭の精度 水平方向の位置ずれ ・杭径の1/4かつ100mm以下 杭の傾斜 ・1/100以内</p> <p>・特定埋込杭工法 (4.2.2)(4.3.1)(4.3.5) ・H13国土交通省告示第1113号第6 による地盤の許容支持力方式で$\alpha=250$を採用できる工法 ・H13国土交通省告示第1113号第6 による地盤の許容支持力方式のうち α、β、γが以下の値を採用できる工法 $\alpha=()$、$\beta=()$、$\gamma=()$ 工法 ・プレローリング拡大根固の工法 ・中掘り拡大根固の工法</p> <p>杭間固定液 ・使用しない 試験杭 試験杭の位置 ・図示による() 杭の支持層への根入れ深さ ・図示による() 杭の精度 水平方向の位置ずれ ・図示による() 杭の傾斜 ・図示による()</p> <p>杭の継手の工法 (4.3.3)(4.3.6)(7.2.5) ・アーク溶接継手 溶接材料 ・標準仕様書 7.2.5(1)(2)による ・無溶接継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの) 工法 ・図示による() 検査 ・図示による() ※評定等により定められた項目 施工 ・図示による()</p> <p>杭頭の処理等 ・処理しない ・処理する 処理方法(切断ともなう補強方法含む) ・図示による()</p> <p>杭頭の中詰め材料 (4.3.8) ・基礎のコンクリートと同調合のもの</p>	種類	コンクリート強度(N/mm ²)	鋼管厚(mm)	杭径(mm)	杭長(m)	継手数	セツ数	長期設計支持力(kN/本)	備考	試験杭									本杭									<p>② 鋼管杭地盤</p> <p>材料、寸法、継手等 (4.2.2)(4.4.3)(4.4.5)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>杭径(mm)</th> <th>杭長(m)</th> <th>継手数</th> <th>セツ数</th> <th>長期設計支持力(kN/本)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>試験杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>本杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・特定埋込杭工法 (4.2.2)(4.3.5)(4.4.4) ・H12国土交通省告示第1113号第6 による地盤の許容支持力方式で$\alpha=250$を採用できる工法 ・H13国土交通省告示第1113号第6 による地盤の許容支持力方式のうち α、β、γが以下の値を採用できる工法 $\alpha=()$、$\beta=()$、$\gamma=()$ 工法 ・中掘り拡大根固の工法</p> <p>試験杭 試験杭の位置 ・図示による() 杭の精度 水平方向の位置ずれ ・図示による() 杭の傾斜 ・図示による()</p> <p>杭の継手の工法 (4.4.3)(4.4.5)(7.2.5) ・溶接継手 形状 ・JIS A 5525による 溶接材料 ・標準仕様書 7.2.5(1)(2)による ・無溶接継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの) 工法 ・図示による() 検査 ・図示による() ※評定等により定められた項目 施工 ・図示による()</p> <p>杭頭の処理等 (4.3.8)(4.4.6) ・処理しない ・処理する 処理方法(切断ともなう補強方法含む) ・図示による()</p> <p>杭頭の中詰め材料 (4.3.8) ・基礎のコンクリートと同調合のもの</p> <p>工法 (4.5.1)(4.5.5) ・アースドリル工法(安定液・使用する・使用しない) ・リバース工法 ・オールケーシング工法(孔内の水張り・行う・行わない)</p> <p>併用する工法 (4.5.1)(4.5.6) ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 鋼管の種類 ・SKK400 ・SKK490 ・拡底杭工法(安定液・使用する・使用しない)</p> <p>寸法等 (4.2.2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>鋼管厚(mm)</th> <th>鋼管径(mm)</th> <th>軸径(mm)</th> <th>拡底径(mm)</th> <th>杭長(m)</th> <th>セツ数</th> <th>長期設計支持力(kN/本)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>試験杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>本杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>試験杭 試験杭の位置 ・図示による()</p> <p>孔壁の保持状況(孔壁測定) 測定箇所 ・試験杭()箇所及び本杭()箇所</p> <p>杭の支持層への根入れ深さ ・図示による()</p> <p>杭の精度 水平方向の位置ずれ ・杭径の1/4かつ100mm以下 杭の傾斜 ・1/100以内 ・評定等による</p> <p>鉄筋の種類 (4.5.4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類の記号</th> <th>呼び径(mm)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ S2295A</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ S2345</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種類	厚さ(mm)	杭径(mm)	杭長(m)	継手数	セツ数	長期設計支持力(kN/本)	備考	試験杭								本杭								種類	鋼管厚(mm)	鋼管径(mm)	軸径(mm)	拡底径(mm)	杭長(m)	セツ数	長期設計支持力(kN/本)	備考	試験杭									本杭									種類の記号	呼び径(mm)	備考	・ S2295A			・ S2345			<p>③ 砂利地盤</p> <p>④ 捨コンクリート地盤</p> <p>7 床下防湿層</p> <p>8 地盤改良工法</p>	<p>⑤ 鉄筋</p> <p>2 溶接金網</p> <p>⑥ 鉄筋の継手及び定着</p> <p>⑦ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔(溶接金網を含む)</p> <p>⑧ 各部配筋</p> <p>⑨ 圧接完了後の試験</p> <p>7 機械式継手</p>	<p>鉄筋の種類等 (5.2.1)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類の記号</th> <th>呼び径(mm)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ S2295A</td> <td>※ D16以下</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ S2345</td> <td>※ D19以上</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>鉄筋の形状等 (5.2.2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>種類の記号</th> <th>綱目寸法、鉄筋の径(mm)</th> <th>使用部位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 溶接金網</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 鉄筋格子</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>鉄筋の継手の方法等 (5.3.4)(5.5.2)(5.6.3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>部位</th> <th>継手の方法</th> <th>呼び径(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>柱及び梁主筋</td> <td>○ ガス圧接 ・ 機械式継手</td> <td>※ D19以上</td> </tr> <tr> <td>耐力壁の鉄筋</td> <td>○ 重ね継手</td> <td></td> </tr> <tr> <td>基礎、耐圧スラブ、土圧壁</td> <td>○ 重ね継手 ・ ガス圧接</td> <td></td> </tr> <tr> <td>上記以外()</td> <td>・ 重ね継手</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>継手位置 (5.3.4) ○ 図示による(構造関係共通図(配筋標準図) 5.1, 6.1, 7.1, 7.3, 8.1) 基礎梁主筋の継手位置 ・ 図5.2 ・ 図5.3 ・ 図5.4 ・ 図示による()</p> <p>柱及び梁主筋の重ね継手の長さ (5.3.4) ・ 図示による()</p> <p>耐力壁の重ね継手の長さ (5.3.4) ・ 図示による(構造関係共通図(配筋標準図) 3(1)(4)表3.1) ・ 図示による(構造関係共通図(配筋標準図) 3(1)(9)) ・ 図示による()</p> <p>鉄筋の定着長さ (5.3.4) ・ 図示による(構造関係共通図(配筋標準図) 3(2))</p> <p>最小かぶり厚さ(目地底から算出を行う) (5.3.5) ○ 図示による(構造関係共通図(配筋標準図) 表4.1) (溶接金網を含む)</p> <p>柱及び梁の主筋にD29以上の使用 ・ あり 使用箇所() 主筋のかぶり厚さを後の1.5倍以上確保する</p> <p>耐久性上不利な箇所がある場合(塩害等を受けるおそれのある部分等) ・ 適用箇所() ・ 最小かぶり厚さに加える厚さ ()mm</p> <p>各部配筋 (5.3.7) ※ 図示による</p> <p>外観試験 (5.4.10)(5.4.11) ※ 行う(全ての圧接部)</p> <p>採取試験 (5.4.10)(5.4.11) ※ 図示による(全ての圧接部)</p> <p>引張試験 試験ロット: 1組の作業面が1日に行った圧接箇所とする。なお、200か所を超えるときは200か所とする。 試験の箇所数: 1ロットに対して30か所とし、ロットから無作為に抜き取る。</p> <p>適用箇所 (5.5.2) ・ 図示による()</p> <p>H12建告第1463号に適合する性能 ・ A級</p> <p>機械式継手の種類 (5.5.2) ・ 図示による()</p> <p>鉄筋相互のあき (5.3.5)(5.5.2) ・ 図示による()</p> <p>施工完了後の継手部の試験 (5.5.2) ・ 図示による()</p> <p>(5.5.2) 構造設計及び法適合確認を行った者</p> <p>一級建築士 第338155号 構造設計一級建築士 第 9525号 久保田 謙三</p>	種類の記号	呼び径(mm)	備考	・ S2295A	※ D16以下		・ S2345	※ D19以上		種類	種類の記号	綱目寸法、鉄筋の径(mm)	使用部位	・ 溶接金網				・ 鉄筋格子				部位	継手の方法	呼び径(mm)	柱及び梁主筋	○ ガス圧接 ・ 機械式継手	※ D19以上	耐力壁の鉄筋	○ 重ね継手		基礎、耐圧スラブ、土圧壁	○ 重ね継手 ・ ガス圧接		上記以外()	・ 重ね継手	
	種類	コンクリート強度(N/mm ²)	鋼管厚(mm)	杭径(mm)	杭長(m)	継手数	セツ数	長期設計支持力(kN/本)	備考																																																																																																																						
試験杭																																																																																																																															
本杭																																																																																																																															
種類	厚さ(mm)	杭径(mm)	杭長(m)	継手数	セツ数	長期設計支持力(kN/本)	備考																																																																																																																								
試験杭																																																																																																																															
本杭																																																																																																																															
種類	鋼管厚(mm)	鋼管径(mm)	軸径(mm)	拡底径(mm)	杭長(m)	セツ数	長期設計支持力(kN/本)	備考																																																																																																																							
試験杭																																																																																																																															
本杭																																																																																																																															
種類の記号	呼び径(mm)	備考																																																																																																																													
・ S2295A																																																																																																																															
・ S2345																																																																																																																															
種類の記号	呼び径(mm)	備考																																																																																																																													
・ S2295A	※ D16以下																																																																																																																														
・ S2345	※ D19以上																																																																																																																														
種類	種類の記号	綱目寸法、鉄筋の径(mm)	使用部位																																																																																																																												
・ 溶接金網																																																																																																																															
・ 鉄筋格子																																																																																																																															
部位	継手の方法	呼び径(mm)																																																																																																																													
柱及び梁主筋	○ ガス圧接 ・ 機械式継手	※ D19以上																																																																																																																													
耐力壁の鉄筋	○ 重ね継手																																																																																																																														
基礎、耐圧スラブ、土圧壁	○ 重ね継手 ・ ガス圧接																																																																																																																														
上記以外()	・ 重ね継手																																																																																																																														
<p>工事名称</p> <p>令和3年度(令和2繰)学校施設環境改善交付金 那賀町学校給食センター新築工事</p> <p>日付</p> <p>縮尺</p> <p>—</p> <p>No.</p> <p>設計</p> <p>図面番号</p> <p>S001</p> <p>製図</p> <p>設計番号</p> <p>校閲</p>	<p>図面名称</p> <p>特記仕様書(その2-1)</p>	<p>株式会社 四電技術コンサルタント</p> <p>1級建築士事務所 徳島県登録第71037号 管理建築士 片山 有史 1級建築士登録第272193号</p>																																																																																																																													

※A3版は71%出力とする。

B 溶接継手	適用箇所 ・ 図示による()	(5.6.3)	⑥ コンクリートの種類等	コンクリートの種類等 コンクリートの類別 (6.2.1) ※I類 (JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート) ・ II類 (JIS A 5308に適合したコンクリート)	⑦ 鉄骨製作工場	鉄骨製作工場の加工能力 (7.1.3) 建築基準法第77条の56に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認定を受けた(株)日本鉄骨評価センター及び(株)全国鉄骨評価機構(旧(株)全国鉄骨工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」により評価を受け、国土交通大臣から認定を受けた工場、又は同等以上の能力のある工場 評価の区分 ※() グレード ・ グレードの指定はしない
	H12建造第1463号に適合する性能 ・ A級	(5.6.3)		※普通コンクリート (6.2.1~6.2.4)		⑧ 鉄骨製作工場における 施工管理技術者
溶接継手の工法 ・ 図示による()	(5.6.3)	② セメント	種類 ※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又は フライアッシュセメントA種 適用箇所(※下記以外全て) 普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の他、水和熱が7日目で352J/g 以下、かつ28日目で 402J/g 以下のものとする ・ 高炉セメントB種 [G] 適用箇所(・ IFLより下部 (立上り部含む)) ・ フライアッシュセメントB種 [G] 適用箇所()	⑨ 鋼材	種類等 (7.2.1)	
鉄筋相互のあき ・ 図示による()	(5.6.3)	④ 骨材	アルカリシリカ反応性による区分 (6.3.1) ※A ・ B (コンクリート中のアルカリ総量が3.0 kg/m ³ 以下)	⑩ 高力ボルト	高力ボルトの種類 (7.2.2) ○トルシア形高力ボルト ○JIS形高力ボルト ○溶融亜鉛めっき高力ボルト	
溶接完了後の継手部の試験 ・ 図示による()	(5.6.3)	④ 混和材料	・ 混和剤 (6.3.1) 混和剤の種類 ※標準仕様書 6.3.1(4)(a)による ・ 混和材 (6.3.1) 混和材の種類 ※標準仕様書 6.3.1(4)(b)による	⑪ 普通ボルト	ボルトの種類 (7.2.3) ○標準仕様書 表7.2.3 (JIS附属書品)又は次による ボルトの規格は、JIS B 1180とする。 (ボルトの種類は、呼び径六角ボルト又は全ねじ六角ボルトとし、材料は鋼とする。 ボルトの強度区分は、4.6又は4.8とする。なお、呼び径六角ボルトの軸径の最大寸法は、ボルトの径の値以下とする。ナットの規格は、JIS B 1181とする。 ナットの種類は、六角ナットCとし、材料は鋼とする。	
不合格となった継手部への措置 ・ 図示による()	(5.6.3)	⑤ 打継ぎの位置、 ひび割れ誘発目地、 打継目地	打継ぎの位置 (6.6.4) 梁及びスラブ ※スバンの中央又は端から1/4の付近 ・ 図示による() 柱及び壁 ※スラブ、壁梁又は基礎の上端 ・ 図示による()	⑫ アンカーボルト	アンカーボルトの種類 (7.2.4)(7.10.3) 種類 ○ASR400 ・ ASR490 ・ 建方(及び付属鉄骨)用アンカーボルト、間柱 種類 ○SS400 アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度 ※標準仕様書 表7.2.3による	
		⑤ コンクリートの仕上げ	含板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ (6.2.5)(6.8.2)	⑬ 溶接材料	溶接材料 (7.2.5) ※標準仕様書 7.2.5(1)(2)による ・ 標準仕様書 7.2.5(1)(2)以外の溶接材料 材料及び使用箇所 ・ 図示による()	
		⑦ 打増し厚さ (打放し仕上げ部)	打増し厚さ (6.8.1) ・ 打放し仕上げの打増し厚さ(外部に面する部分に限る) ・ 20mm ・ 打放し仕上げの打増し厚さ(内部に面する部分に限る) ・ 10mm ・ 20mm ・ 外装タイル後張り面の打増し処理 ・ 20mm	⑭ ターンバックル	種類 (7.2.6) 建築用ターンバックルボルト ※羽子板ボルト 建築用ターンバックル鋼 ※新特式 ねじの呼び (7.2.6) ・ 図示による()	
		⑧ 型枠	せき板の材料及び厚さ (6.8.2) ○合板(※12mm) [G] ・ 断熱材を兼用した型枠材 使用箇所 ・ 図示による() ・ MCR工法用シート 適用箇所 ・ 図示による()			

記 事	工事名称 令和3年度(令和2線)学校施設環境改善交付金 那賀町学校給食センター新築工事	日付	No.	図面番号 S002	設計番号	株式会社 四電技術コンサルタント 1級建築士事務所 徳島県登録第71037号 管理建築士 片山 有 史 1級建築士登録第272193号
	図面名称 特記仕様書(その2-2)	縮尺 —	設 計	製 図	校 閲	
※A3版は71%出力とする。						

<p>9 床構造用のデッキプレート</p> <p>① スタッド</p> <p>① 柱底均しモルタル</p> <p>② 製作精度</p> <p>13 溶接技能者の技量付加試験</p> <p>④ 溶接接合</p> <p>15 入熱、バス間温度の管理</p> <p>⑤ 溶接部の試験</p>	<p>材質、形状及び寸法 (7.2.7)</p> <table border="1"> <tr> <th>適用箇所</th> <th>材質・形状・寸法</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・デッキプレート 単独の構法</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○デッキプレートと コンクリートとの 成スラブとする構法</td> <td>陸屋根部分(S-19図)参照</td> <td></td> </tr> </table> <p>開口部補強要領 (補強筋の定着長さ等を含む) ・図示による()</p> <p>鉄骨部材への溶接方法 (7.7.8) ・図示による()</p> <p>耐火認定 ・あり 耐火時間 - 図示による() ・なし</p> <p>種類等 (7.2.8)</p> <table border="1"> <tr> <th>呼び名</th> <th>呼び長さ (mm)</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>○16</td> <td>80mm</td> <td>2階大梁・小梁上</td> </tr> <tr> <td>・19</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・22</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>無収縮モルタルとする場合の材料、割合等 ※標準仕様書 7.2.9(2)(7)から(8)による</p> <p>鉄骨の製作精度は、JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準]に加えて、次による 通しダイヤフラムの突合せ継手の食い違いの寸法 ※平12建告第1464号第二号イ(2)による</p> <p>アンダーカットの寸法 ※平12建告第1464号第二号イ(3)による</p> <p>食い違い・仕口のずれの検査方法及び補強方法 ・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による</p> <p>試験の要領 (7.6.3) ・図示による()</p> <p>開先の形状 (7.6.4) ・図示による (構造関係共通図 (鉄骨標準図) 1-2)</p> <p>・エンドタブの切断する部分 (7.6.7) 切断する箇所 ・図示による() 切断範囲 ・エンドタブ、表当て金等は、梁フランジ等の端から 5mm 以下残して直線上に切断する。 なお、切断線が交差する場合は、交差部をアール状に加工する</p> <p>切断面の仕上げ ・標準仕様書7.6.7(1)(a)(b)②による</p> <p>スカラップの形状 (7.6.7) ○図示による (構造関係共通図 (鉄骨標準図) 1-4(4)改良型スカラップ)</p> <p>適用箇所 ・図示による() ・柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶込み溶接部</p> <p>平12建告第1464号第二号に関する外観試験方法等 (7.6.12) ・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」3.5.2 受入検査による ・抜き取り検査① ※抜き取り検査②</p> <p>JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準]の付表3「溶接」に関する試験方法等 ・JASS 10.4 [受入検査] e. 溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の採取箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同ーとする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。</p> <p>完全溶込み部の超音波探傷試験 ○工場溶接の場合 AOQL (%) ※4.0 - 2.5</p> <table border="1"> <tr> <th>部</th> <th>・全て</th> <th></th> <th></th> <th></th> </tr> <tr> <td>検査水準</td> <td>※第6水準</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>・全数 ○工事現場溶接の場合 ※全数</p>	適用箇所	材質・形状・寸法	備考	・デッキプレート 単独の構法			○デッキプレートと コンクリートとの 成スラブとする構法	陸屋根部分(S-19図)参照		呼び名	呼び長さ (mm)	適用箇所	○16	80mm	2階大梁・小梁上	・19			・22			部	・全て				検査水準	※第6水準				<p>① 新止め塗装 (7.8.2)</p> <p>18 耐火被覆 (7.9.2~7.9.8)</p> <p>④ 建方精度 (7.10.2)</p> <p>④ アンカーボルトの設置等 (7.10.3)</p>	<p>塗料の範囲 (7.8.2) 耐火被覆材の接着する面の塗装範囲 ・図示による() 耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲 ・図示による()</p> <p>塗料の種類 工場2回塗り (7.8.4)(18.3.2) ・鉄骨面の新止め塗料の種類 屋外 ・A種 ○鉛クロムフリー新止めJISK5674 30μm 屋内 ・A種 ○鉛クロムフリー新止めJISK5674 30μm ○南側ブラットホームの内外(OP塗り) ジンクリッチプライマー-JISK5552 2種 15μm ・垂れ下り部の新止め塗料の種類 ○溶融亜鉛メッキ 屋外露出部分</p> <p>・鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内側の新止め塗料の種類 ※A種 ・耐火被覆が接着する面の塗料の種類</p> <p>種類、材料、工法等 (7.9.2~7.9.8)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>材料・工法</th> <th>性能(耐火時間)</th> <th>適用箇所(部位・部分)</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">・耐火材吹付け</td> <td>・乾式吹付けロックウール</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・半乾式吹付けロックウール</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・耐火材巻付け</td> <td>・湿式ロックウール</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・耐火板張り</td> <td>・繊維混入けい酸カルシウム板</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・耐火材巻付け</td> <td>・高断熱ロックウール</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ラス張りモルタル塗り</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・耐火塗料</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>※JASS6 付則6 [鉄骨精度基準] 付表5 [工事現場] による (7.10.2)</p> <p>構造用アンカーボルトの形状及び寸法 (7.10.3) ○図示による()</p> <p>構造用アンカーフレームの形状及び寸法 (7.10.3) ・図示による()</p> <p>建方(及び付属鉄骨)用アンカーボルトの形状及び寸法 (7.10.3) ・図示による()</p> <p>建方(及び付属鉄骨)の保持及び埋込み工法 (7.10.3) 種類 ・A種 ・B種</p> <p>柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種類 (7.10.3) 厚さ - 50mm 種類 ※A種</p>	種類	材料・工法	性能(耐火時間)	適用箇所(部位・部分)	・耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール			・半乾式吹付けロックウール			・耐火材巻付け	・湿式ロックウール			・			・耐火板張り	・繊維混入けい酸カルシウム板			・			・耐火材巻付け	・高断熱ロックウール			・			・ラス張りモルタル塗り	-			・耐火塗料	-			<p>構造設計及び法適合確認を行った者</p> <p>一級建築士 第338155号 構造設計一級建築士 第 9525号 久保田 謙三</p>
適用箇所	材質・形状・寸法	備考																																																																									
・デッキプレート 単独の構法																																																																											
○デッキプレートと コンクリートとの 成スラブとする構法	陸屋根部分(S-19図)参照																																																																										
呼び名	呼び長さ (mm)	適用箇所																																																																									
○16	80mm	2階大梁・小梁上																																																																									
・19																																																																											
・22																																																																											
部	・全て																																																																										
検査水準	※第6水準																																																																										
種類	材料・工法	性能(耐火時間)	適用箇所(部位・部分)																																																																								
・耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール																																																																										
	・半乾式吹付けロックウール																																																																										
・耐火材巻付け	・湿式ロックウール																																																																										
	・																																																																										
・耐火板張り	・繊維混入けい酸カルシウム板																																																																										
	・																																																																										
・耐火材巻付け	・高断熱ロックウール																																																																										
	・																																																																										
・ラス張りモルタル塗り	-																																																																										
・耐火塗料	-																																																																										
<p>記</p> <p>事</p>	<p>工事名称 令和3年度(令和2編)学校施設環境改善交付金 那賀町学校給食センター新築工事</p> <p>図面名称 特記仕様書(その2-3)</p>	<p>日付</p> <p>No.</p> <p>図面番号 S003</p> <p>設計番号</p>	<p>縮尺</p> <p>設計</p> <p>製図</p> <p>校閲</p>	<p>株式会社 四電技術コンサルタント</p> <p>1級建築士事務所 徳島県登録第71037号 管理建築士 片山 有史 1級建築士登録第272193号</p>																																																																							

※A3版は71%出力とする。

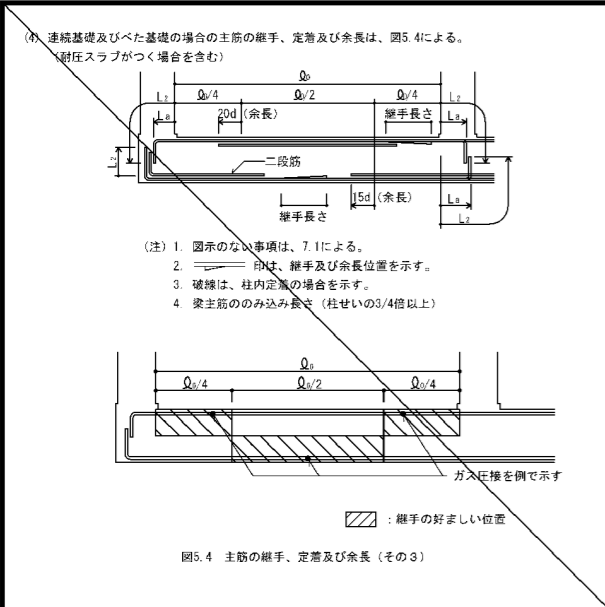


図5.4 主筋の継手、定着及び余長（その3）

5.2 基礎梁のあばら筋等

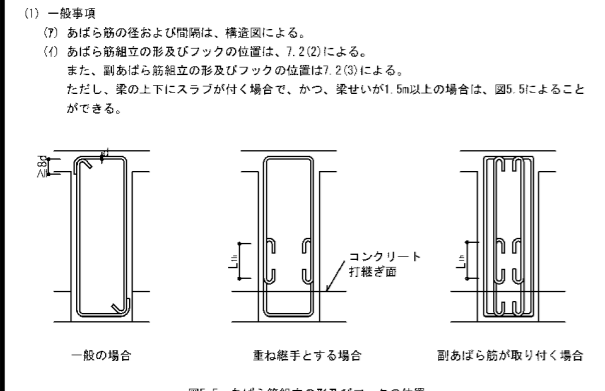


図5.5 あばら筋組立の形及びフックの位置

6.1 柱

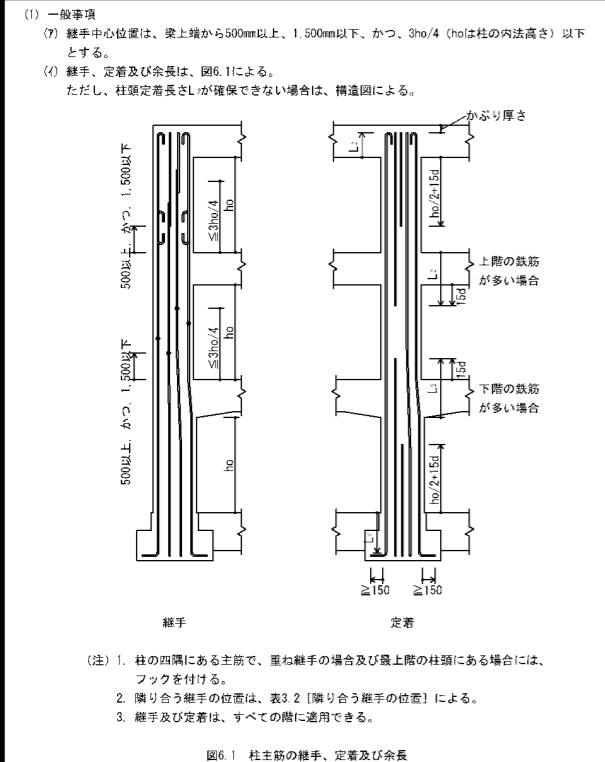


図6.1 柱主筋の継手、定着及び余長

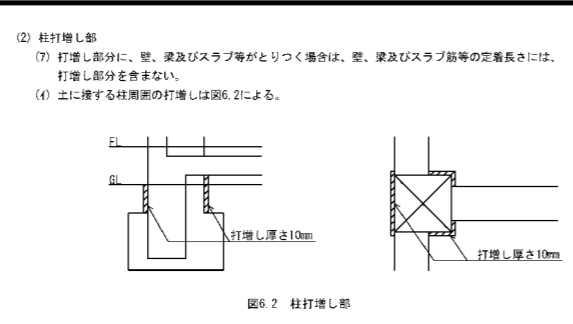


図6.2 柱打増し部

6.2 帯筋

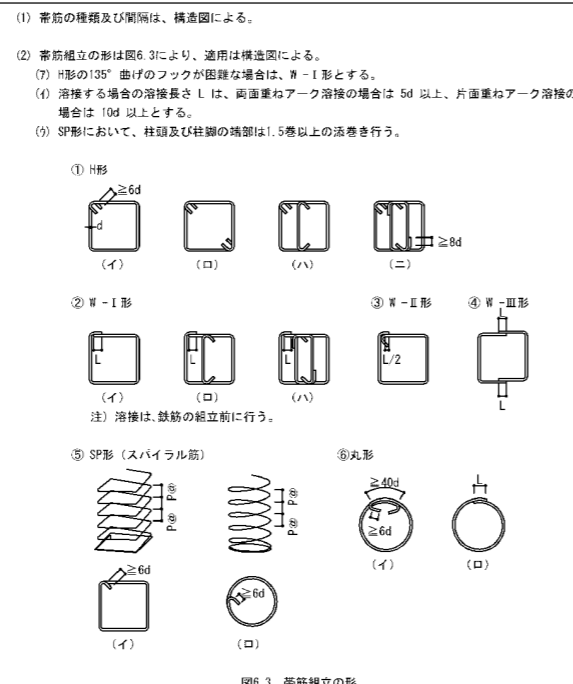


図6.3 帯筋組立の形

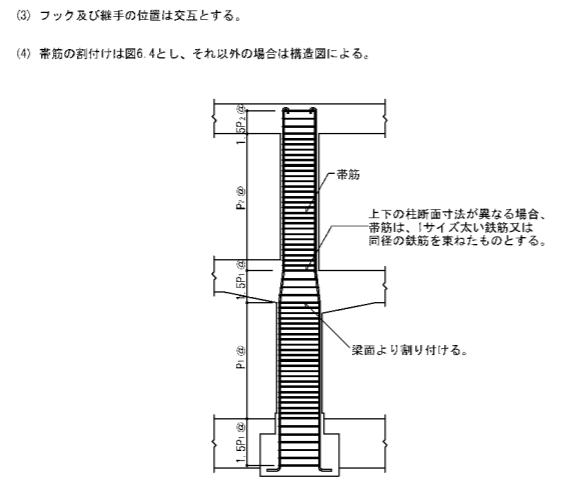


図6.4 帯筋の割付け

7.1 大梁

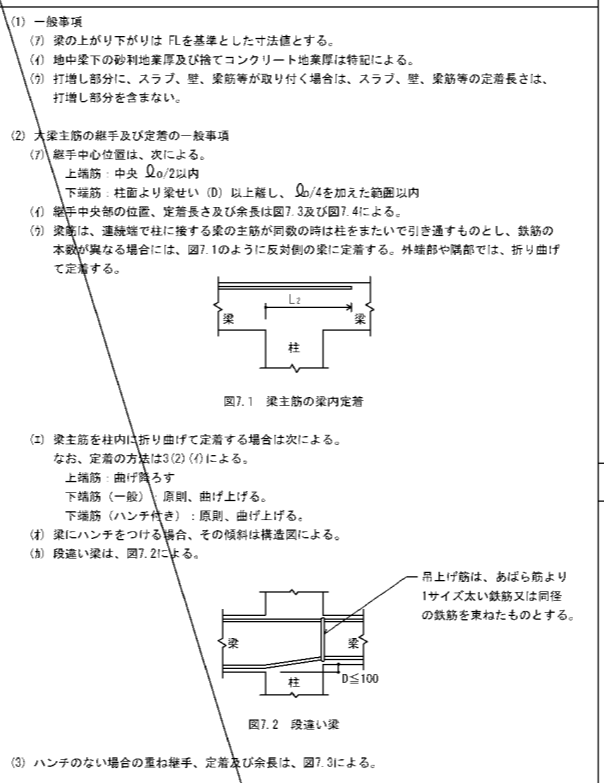


図7.1 大梁主筋の梁内定着

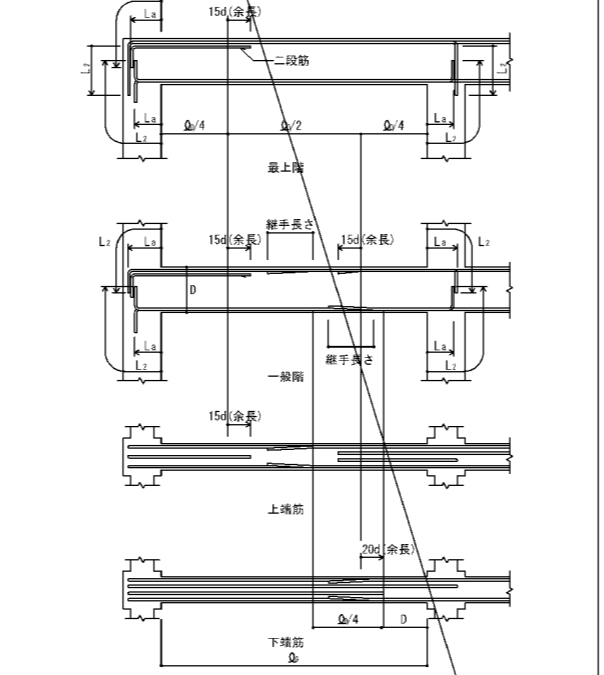


図7.2 段違い梁

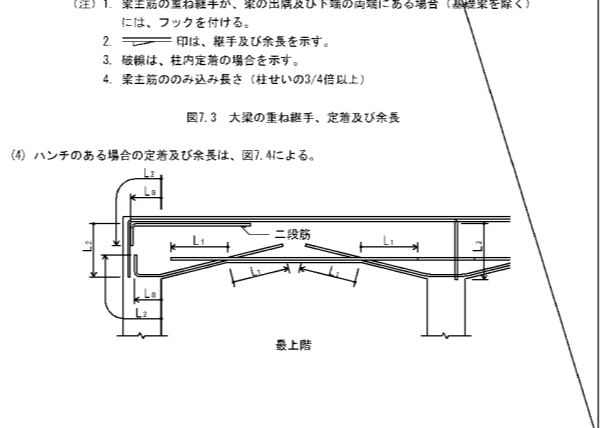


図7.3 大梁の重ね継手、定着及び余長

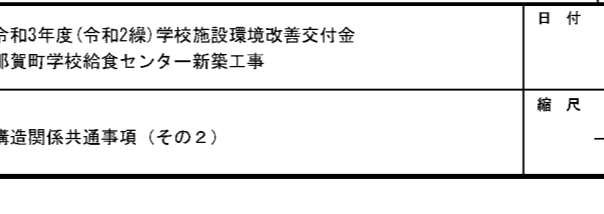


図7.4 ハンチのある大梁の定着及び余長

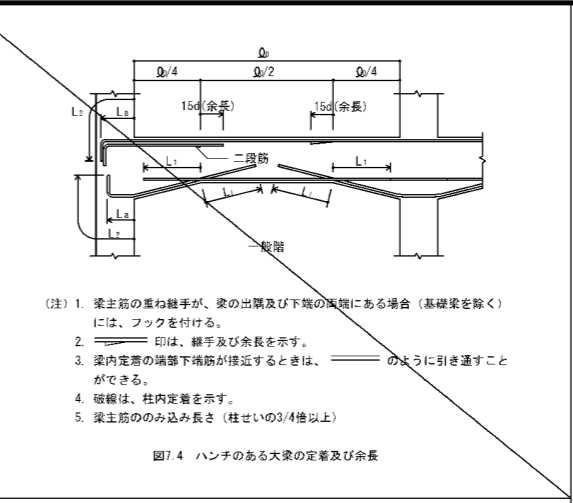


図7.4 ハンチのある大梁の定着及び余長

7.2 あばら筋等

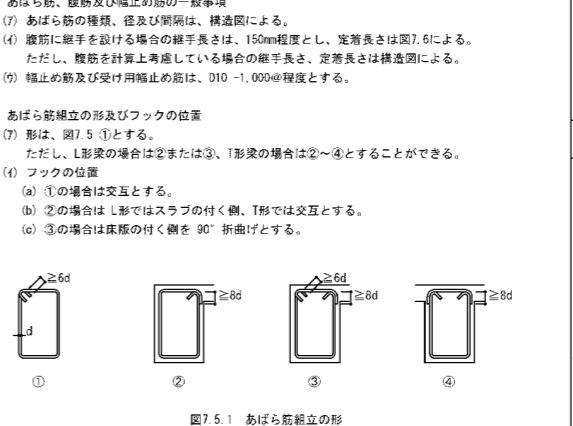


図7.5.1 あばら筋組立の形

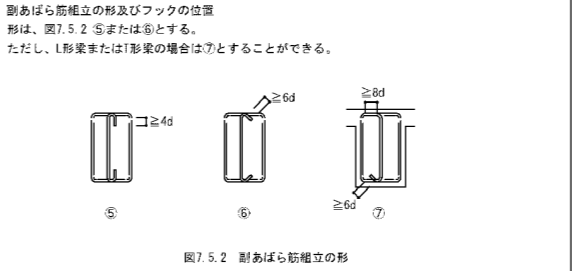


図7.5.2 別あばら筋組立の形

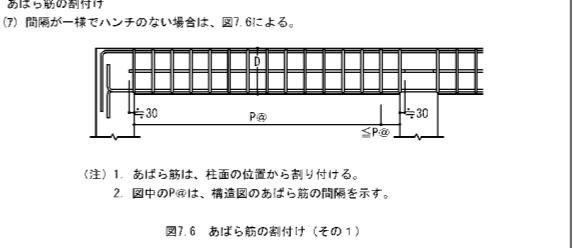


図7.6 あばら筋の割付け（その1）

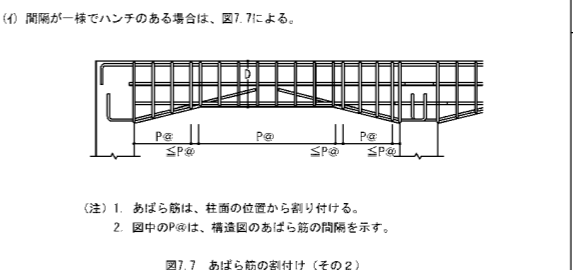


図7.7 あばら筋の割付け（その2）

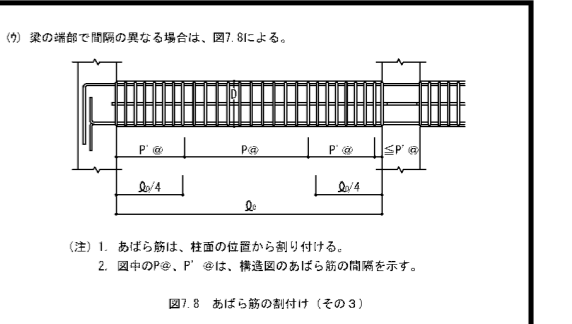


図7.8 あばら筋の割付け（その3）

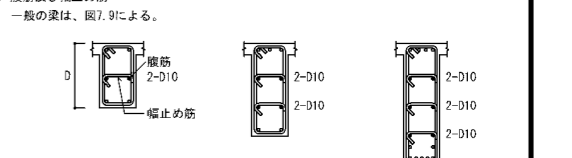


図7.9 腹筋および幅止め筋

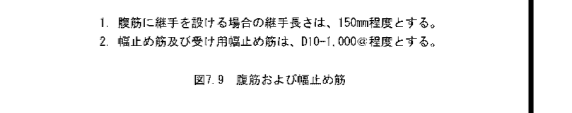


図7.10 小梁主筋の継手、定着及び余長（その1）

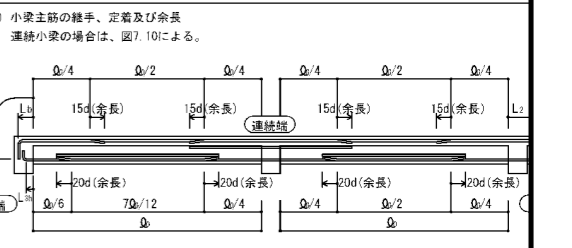


図7.11 小梁主筋の継手、定着及び余長（その2）

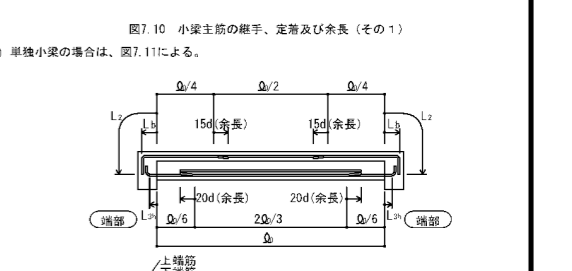


図7.12 片持梁主筋の定着及び余長

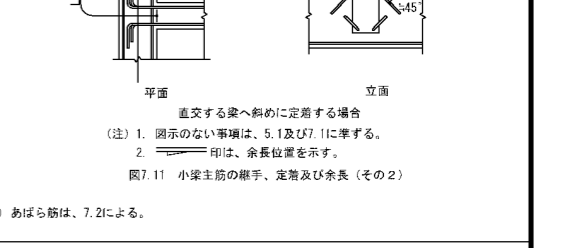


図7.13 片持梁主筋の定着及び余長

構造設計及び法適合確認を行った者

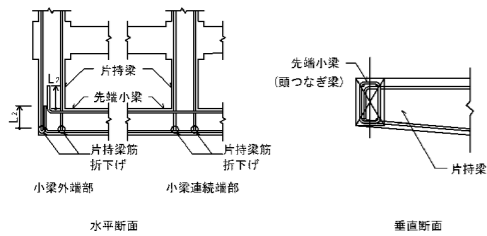
一級建築士 第338155号
 構造設計一級建築士 第 9525号
 久保田 謙三

1級建築士事務所 徳島県登録第71037号
 管理建築士 片山 有史
 1級建築士登録第27193号

記 事	工事名称	令和3年度(令和2線)学校施設環境改善交付金 那賀町学校給食センター新築工事	日付		No.		図面番号	S005	設計番号	
	図面名称	構造関係共通事項（その2）	縮尺	—	設計		製図		校閲	

※A3版は71%出力とする。

(4) 先端に小梁がある場合は、図7.13による。



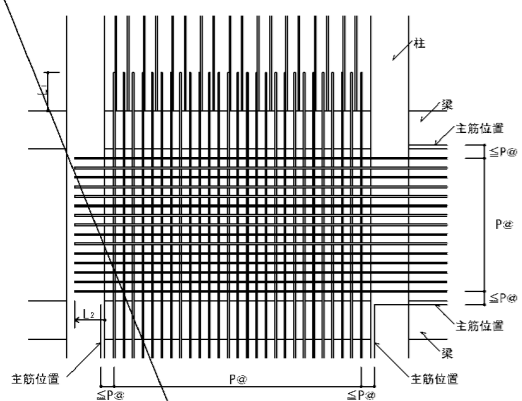
- (注) 1. 図示のない場合は、(7)による。
2. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
3. 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

図7.13 片持梁主筋の定着

(2) あらば筋は、7.2による。

8.1 壁

- 1) 一般事項
(7) 一般壁筋の重ね継手の長さは L_t とし、耐力壁筋の重ね継手の長さは特記による。また、定着の長さは、 L_t とし、鉄筋の継手位置は、柱・梁部以外とする。
(8) 幅止め筋は、縦横とも $D10-1,000$ 程度とする。
(9) 打増し部分に、壁及びスラブ等が取り付く場合は、壁及びスラブ等の定着長さに打増し部分は含まない。



(注) 図中の $P@$ は、構造図の壁筋の間隔を示す。

図8.1 壁の配筋

(2) 壁の配筋は表8.11により、種別は構造図による。

表8.11 壁の配筋

種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)
W12	D10-200#シングル	120
W15A	D10-150#シングル	150
W15B	D10-100#シングル	150
W18A	D10-200#ダブル	180
W18B	D10-150#ダブル	180
W20A	D10-200#ダブル	200
W20B	D10-150#ダブル	200

(注) 壁筋の配筋順序は、規定しない。

(3) 片持スラブ形階段を受ける壁の配筋は表8.2により、種別は構造図による。

表8.2 片持スラブ形階段を受ける壁の配筋

種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)	階段の配筋種別 (表10.1)
KW1	縦筋 D13-200#ダブル	180	KA1
	横筋 D10-200#ダブル		
KW2	縦筋 D13-150#ダブル	200	KA2
	横筋 D10-200#ダブル		

(注) 縦筋は、横筋の外側に配筋する。

(4) 土圧を受ける壁の配筋は、構造図による。

(5) 壁の交差部及び端部の配筋は、図8.2による。

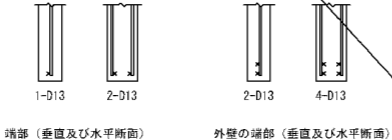
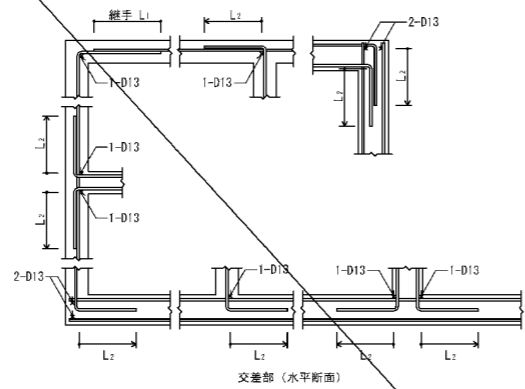


図8.2 壁の交差部及び端部の配筋

8.2 壁の補強

- (1) 壁開口部の補強
(7) 耐力壁を除く壁開口部の補強筋は、A形は表8.3、B形は表8.4とし、適用は構造図による。なお、耐力壁の補強筋は、構造図による。

表8.3 壁開口部補強筋 (A形)

壁の種類	補強筋	
	縦横	斜め
W12, W15	1-D13	1-D13
W18, W20	2-D13	2-D13

表8.4 壁開口部補強筋 (B形)

壁の種類	補強筋	
	縦横	斜め
W12, W15	2-D13	1-D13
W18, W20	4-D13	2-D13

(4) 壁開口部補強筋の定着長さは、図8.3による。

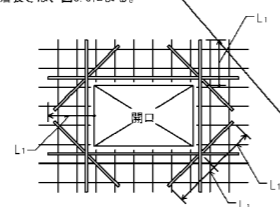


図8.3 壁開口部補強筋の定着長さ

(2) コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、構造図による。

9.1 スラブ

- (1) スラブ及び土間コンクリートの上がり下がり、FLを基準とした寸法値とする。
(2) 土間スラブ下の砂利地層厚及び捨てコンクリート厚は特記による。
(3) 土間コンクリート補強筋 (D0) の配筋及びコンクリート厚さは構造図による。
(4) スラブの配筋 (S形配筋) は表9.1及び図9.11により、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。

表9.1 S形配筋

配筋種別	短辺方向 (主筋) 全域		長辺方向 (配力筋) 全域	
	短辺方向 (主筋) 全域	長辺方向 (配力筋) 全域	短辺方向 (主筋) 全域	長辺方向 (配力筋) 全域
S 1	D13-100#	D13-100#	S 8	D10, D13-150#
S 2	同上	D13-150#	S 9	同上
S 3	同上	D10, D13-150#	S10	D10, D13-200#
S 4	D13-150#	D13-150#	S11	同上
S 5	同上	D10, D13-150#	S12	同上
S 6	同上	D10-150#	S13	D10-200#
S 7	D10, D13-150#	D10, D13-150#	S14	同上

(注) 上端筋、下端筋とも同一配筋とする。

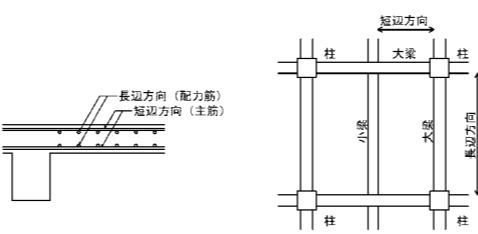


図9.1 スラブの配筋

- (5) 配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。
(6) 原則として引き通し、鉄筋の重ね継手長さは L_t とする。
(7) 定着長さ及び受け筋は、図9.2による。ただし、引き通すことができない場合は、図9.3により梁内に定着する。

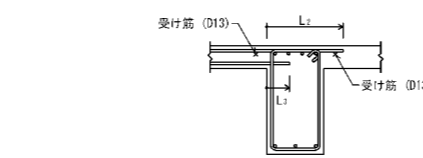


図9.2 スラブ筋の定着長さ及び受け筋 (その1)

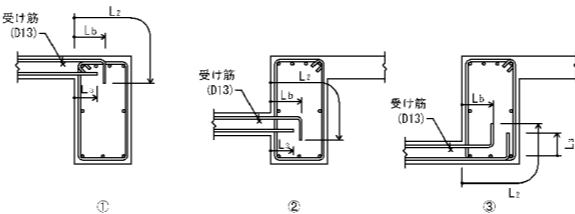


図9.3 スラブ筋の定着長さ及び受け筋 (その2)

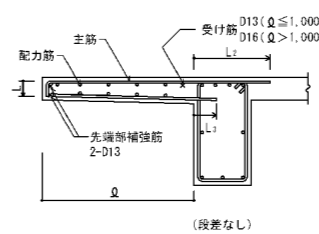
9.2 片持スラブ

片持スラブは、プレキャストコンクリート部材または現場打ちコンクリート部材とする。プレキャストコンクリート部材とする場合の躯体への継手方法は、構造図による。片持スラブの配筋は、次による。

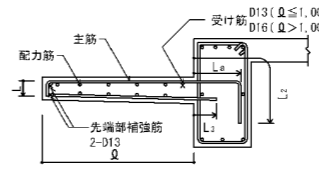
- (1) 片持スラブの配筋 (CS形配筋) は、表9.2並びに図9.4及び図9.5により、配筋種別、配力筋及びスラブ厚さは、構造図による。

表9.2 CS形配筋

配筋種別	主筋	配筋種別	主筋
CS1	上 D13-100# 下 D13-200#	CS5	上 D10-200# 下 D10-400#
CS2	上 D13-150# 下 D13-300#	CS6	上 D10, D13-200# 下
CS3	上 D10, D13-150# 下 D10, D13-300#	CS7	上 D10-200# 下
CS4	上 D10, D13-200# 下 D10-200#		



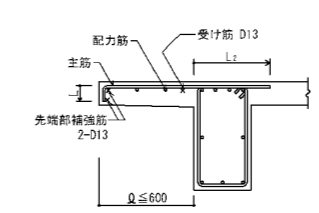
(段差なし)



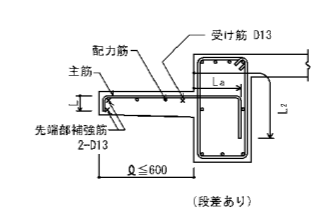
(段差あり)

(注) 先端の折り曲げ長さ L_t は、スラブ厚よりかぶり厚さを除いた長さとする。

図9.4 片持スラブの配筋 (CS1及びCS5)



(段差なし)

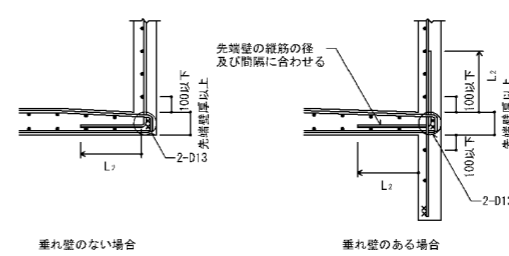


(段差あり)

(注) 先端の折り曲げ長さ L_t は、スラブ厚よりかぶり厚さを除いた長さとする。

図9.5 片持スラブの配筋 (CS6及びCS7)

(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図9.6による。



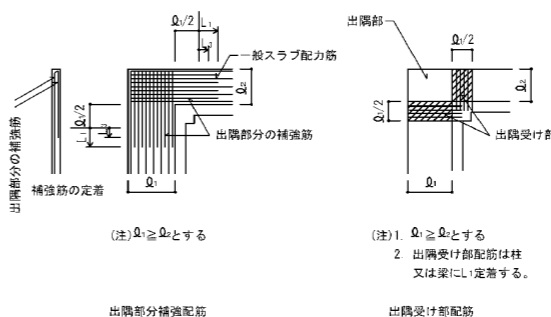
垂れ壁のない場合

垂れ壁のある場合

図9.6 先端に壁が付く場合の配筋

(3) 出隅部

- (7) 出隅部の補強筋は構造図により、配筋方法は、図9.7による。
(4) 出隅受け部分 (図9.7の斜線部分) の補強筋は構造図による。



(注) $Q_1 \geq Q_2$ とする

(注) 1. $Q_1 \geq Q_2$ とする
2. 出隅受け部配筋は柱又は梁に定着する。

図9.7 片持スラブ出隅部の補強配筋

9.3 スラブ等の補強

- (1) スラブ開口部の補強
スラブ開口部の補強方法は、構造図による。構造図になければ、() () による。
(7) スラブ開口の最大径が700mm以下の場合、図9.8により開口によって切られる鉄筋と同等の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13 (=2L_Q シングルを上下筋を上下筋の内側に配筋する。

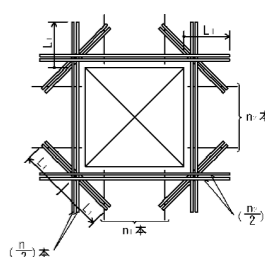


図9.8 スラブ開口部の補強配筋

- (4) スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
(2) 屋根スラブの補強
屋根スラブの出隅及び入隅部分には、図9.9により、補強筋を上端筋の下側に配置する。

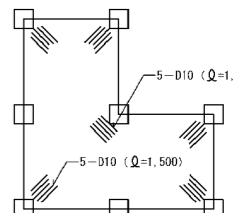
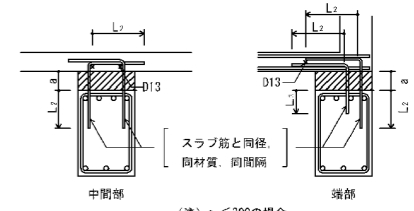


図9.9 出隅及び入隅部の補強配筋

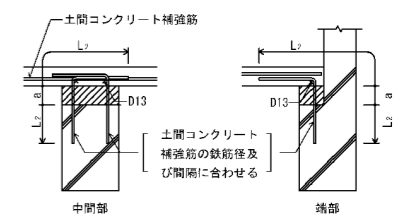
- (2) 土間スラブの打継ぎ補強
基礎梁とスラブを一体打ちしない、打継ぎを設ける場合の補強は図9.10による。ただし、土間スラブとは、土に接するスラブでS形の配筋によるものをいう。



(注) $a \leq 300$ の場合

図9.10 打継ぎ補強配筋

- (4) 土間コンクリートの補強
土間コンクリートの補強筋は、構造図による。なお、基礎梁との接合部は、図9.11による。



(注) $a \leq 300$ の場合

図9.11 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

10.1 片持スラブ形階段

片持スラブ形階段の配筋は、表10.1及び図10.11により、寸法及び配筋種別は、構造図による。t: スラブ厚さ

配筋種別	KA1	KA2
配筋図		
配筋種別	KA3	KA4
配筋図		

構造設計及び法適合確認を行った者

一級建築士 第338155号
構造設計一級建築士 第 9525号
久保田 謙三

工事名称
令和3年度(令和2線)学校施設環境改善交付金
那賀町学校給食センター新築工事

図面名称
構造関係共通事項 (その3)

日付
縮尺
No.
設計
図面番号
S006
設計番号
製図
校閲

株式会社 四電技術コンサルタント

1級建築士事務所 徳島県登録第71037号
管理建築士 片山 有史
1級建築士登録第272193号

※A3版は71%出力とする。

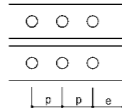
構造関係共通図 (鉄骨標準図)

1-1 縁端距離及びボルト間隔

(1) 縁端距離及びボルト間隔
縁端距離及びボルト間隔は、表1.1による。ただし、引張材の接合部分において、せん断力を受けるボルトが応力方向に3本以上並ばない場合の縁端距離は、構造図による。構造図になければ、ボルト軸径の2.5倍以上とする。また、アンカーボルトの縁端距離は構造図による。

表1.1 縁端距離及びボルト間隔 (単位:mm)

ねじの呼び	縁端距離 e	ボルト間隔 p
M12	40	60
M16		
M20		
M22		
M24	45	70

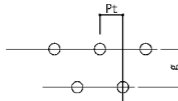


(2) 千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔

千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔は、表1.2による。

表1.2 千鳥のゲージ及びボルト間隔 (単位:mm)

ゲージ e	千鳥打ちのボルト間隔 Pt		
	ねじの呼び		
	M12, M16, M20, M22	M24	
35	50	65	
40	45	60	
45	40	55	
50	35	50	
55	30	45	
60	25	40	



(3) 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径

形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径は、表1.3による。

表1.3 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径 (単位:mm)

A又はB	g1	g2	最大軸径	B			最大軸径
				B	g1	g2	
45	25	12	100	56	16	50	30
50	28	16	125	75	16	65	35
60	35	16	150	90	22	70	40
65	35	20	175	105	22	75	40
70	40	20	200	120	24	80	45
75	40	22	250	150	24	90	50
80	45	22	300	150	40	100	55
90	50	24	350	140	70	24	24
100	55	24	400	140	90	24	24
125	50	35	24	24	※1 千鳥打ちとした場合		
130	50	40	24	24			
150	55	55	24	24			
175	60	70	24	24			
200	60	90	24	24			

1-2 溶接継手の種類別開先標準

突合せ継手(B)の開先標準

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフェシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 6		t ≤ 12	
6 < t ≤ 19		12 < t ≤ 22	
19 < t ≤ 40		22 < t ≤ 40	

T型継手(T)の開先標準

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフェシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 6		t ≤ 12	
6 < t ≤ 19		12 < t ≤ 22	
19 < t ≤ 40		22 < t ≤ 40	

部材が直交しない場合の開先標準

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフェシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
6 < t ≤ 40		6 < t ≤ 19	
6 < t ≤ 19		19 < t ≤ 40	

かど継手(L)の開先標準

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフェシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 6		t ≤ 12	
6 < t ≤ 19		12 < t ≤ 19	
19 < t ≤ 40		19 < t ≤ 40	

隅肉溶接(F)の開先標準

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフェシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 16		t ≤ 16	
16 < t ≤ 40		16 < t ≤ 40	

隅肉溶接のサイズ

t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	19	22	25	28	32	36	40
s	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10	11	12	11	13	15	17	19	21	24

部分溶込み溶接(P)の開先標準

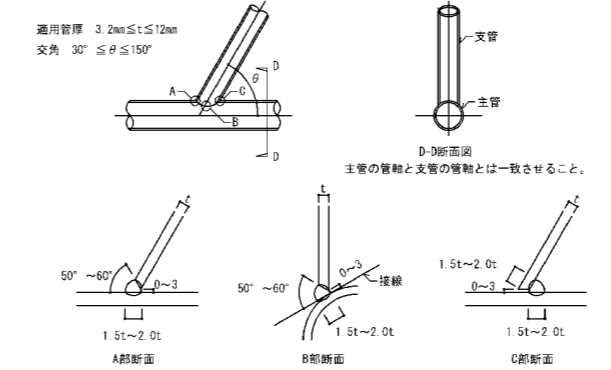
H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフェシールドアーク溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
12 ≤ t ≤ 40	
16 ≤ t ≤ 40	

重ねアーク溶接 (フレア溶接) (FL)の開先標準

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフェシールドアーク溶接)			
1 (丸鋼等片面溶接)	2 (丸鋼等両面溶接)	3 (軽量形鋼V形溶接)	4 (軽量形鋼I形溶接)
t ≥ 3のとき S = t		t ≥ 3のとき S = t	
t < 3のとき S = 3		t < 3のとき S = 3	

1-3 鋼管分岐継手詳細

自動機械により開先加工を行う場合はこの限りではない。

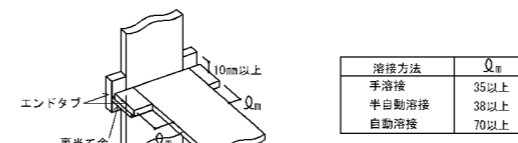


1-4 鉄骨溶接施工

(1) エンドタブ・裏当て金の鋼材の種類及び引張強さによる区分は、母材と同等とする。

(2) エンドタブ

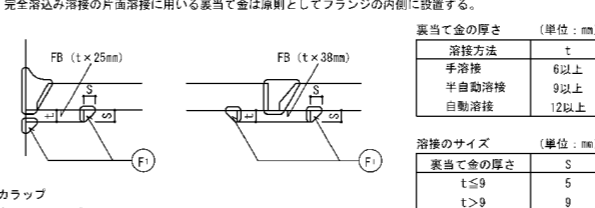
エンドタブの形状は母材と同厚・同開先のものとする。



(3) 裏当て金

(7) 裏当て金の組み立て溶接は、接合部に影響を与えないように、エンドタブの位置又は梁フランジ幅の1/4の位置に行い、梁フランジ両端から10mm以内の位置には行わない。

(4) 完全溶込み溶接の片面溶接に用いる裏当て金は原則としてフランジの内側に設置する。

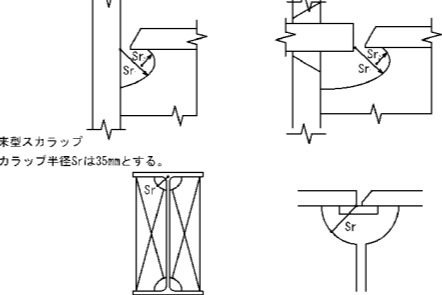


(4) スクラップ

改良型スクラップ

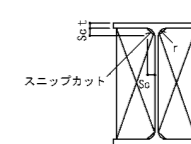
(7) スクラップ半径Srは35mmとする。Srは10mmとする。

(4) スクラップ円弧の曲線は、フランジに滑らかに接するように加工し、複合面は滑らかに仕上げる。



(5) スニップカット

(7) スニップカット部は溶接により埋めるものとする。

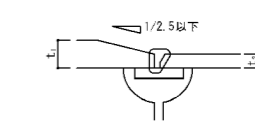


(4) スニップカットの寸法は、下表による。ただし、既製形鋼のスニップカットについては、Sc=r+2lにより求めるものとする。

t	6	9	12	16以上
Sc	10	12	14	15

(6) 溶接部分の段差

完全溶込み溶接を行う部分の板厚の差による段差が10mmを超える場合、又は低応力高サイクル疲労を受ける場合



1-5 重ねアーク溶接 (フレア溶接) を行う場合の溶接長さ

鉄筋又は軽量形鋼に重ねアーク溶接 (フレア溶接) を行う場合の溶接長さ (L) は、ビードの始点 (La) 及びクレーター (Lb) を除いた部分の長さとする。

L: 片面フレア溶接の場合 10d

両面フレア溶接の場合 5d



La及びLbは 1d (軽量形鋼については 1S) 以上

d: 異形鉄筋の呼び名に用いた数値

S: 溶接のサイズ

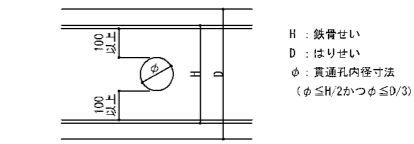
1-6 梁貫通孔補強

(1) 鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の鉄骨梁ウェブ部材に貫通孔を設ける場合は、次による。

(7) 貫通孔の内径寸法は、鉄骨せいりの1/2以下かつ鉄筋コンクリート梁せいの1/3以下とする。

(4) 貫通孔間隔は、両側の貫通孔径の平均値の、鉄骨造で2倍以上、鉄骨鉄筋コンクリート造で3倍以上確保する。

梁貫通孔の位置の偏差 (単位:mm)



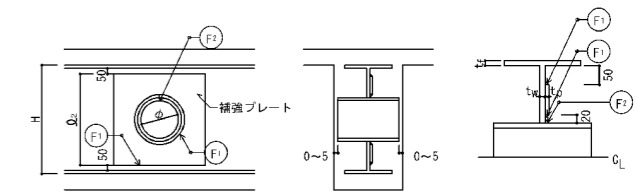
(2) 貫通孔の補強方法は、構造図による。

補強プレート法及び補強トラス法の溶接等は、以下による。

補強プレート法

(7) 補強プレートが16mm以上となる場合は、必要な長さの1/2以上の補強プレートをウェブ両面から溶接する。

(4) 補強プレートは丸型としても良い。上下フランジとのあき50mmについては施工性を考慮して小さくすることもできる。

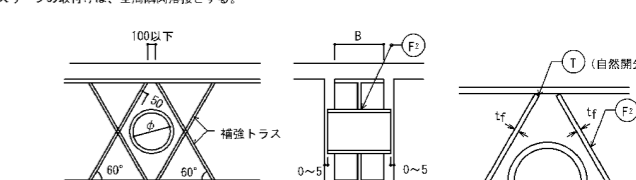


φは3φまたはφのうち小さい方とする。(φ ≥ Hとする)

e: 材端と補強プレートの間隔

補強トラス法

スリーブの取付けは、全周隅肉溶接とする。



1-7 その他

(1) 広幅平鋼の取り扱いについて

B材のフランジ及びフランジに使用する外割スライスプレートは、PL表記であってもFB又はPLとする。

F(2)ラップの材質

フィラープレートを使用する場合、材質はSS400とする。

構造設計及び法適合確認を行った者

一級建築士 第338155号

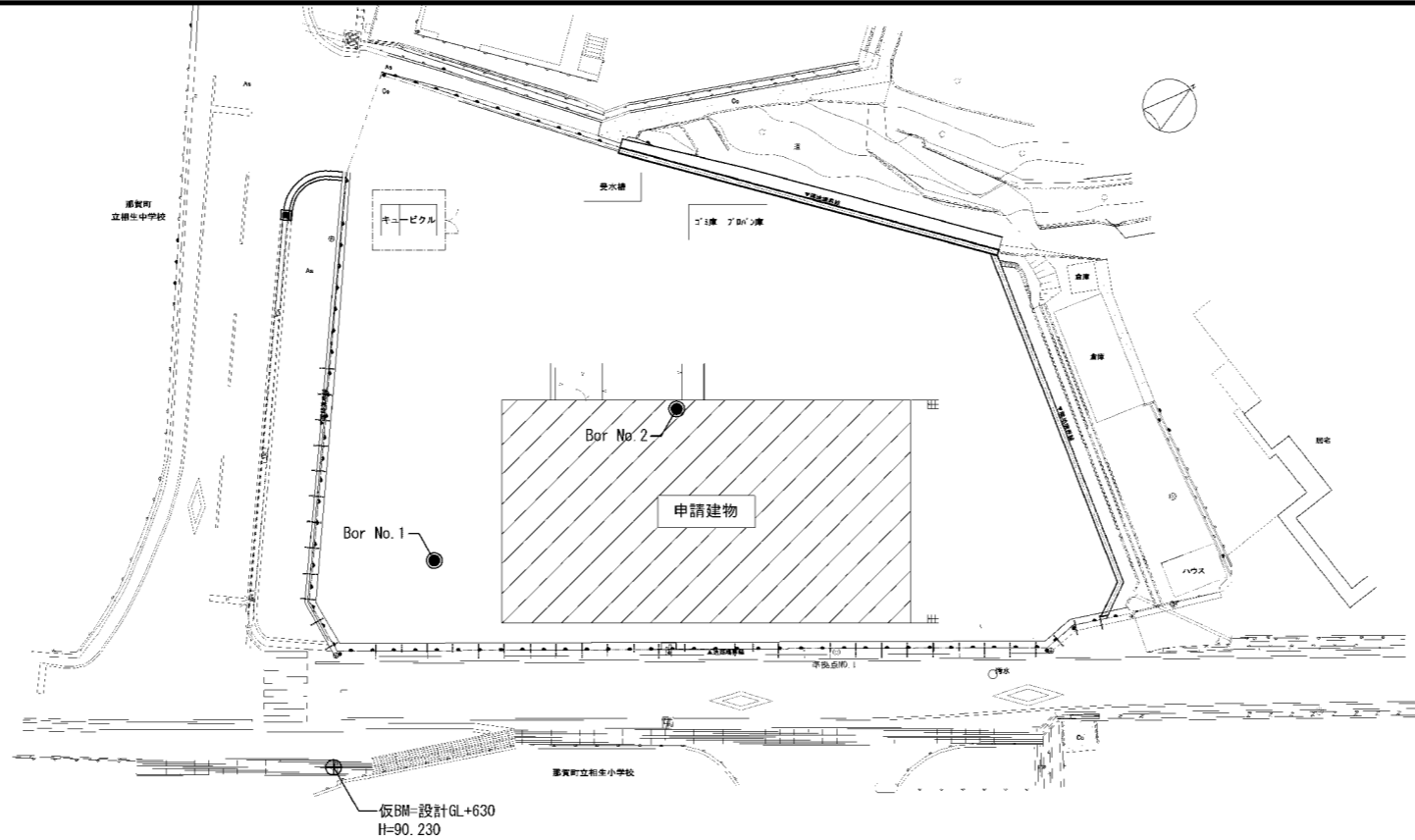
構造設計一級建築士 第 9525号

久保田 謙三

四電技術コンサルタント

株式会社

1級建築士事務所 徳島県登録第71037号
 管理建築士 片山 有史
 1級建築士登録第272193号



設計GL=標高89.600

調査名 令和2年度 那賀町学校給食センター用地調査及び造成工事測量設計委託業務

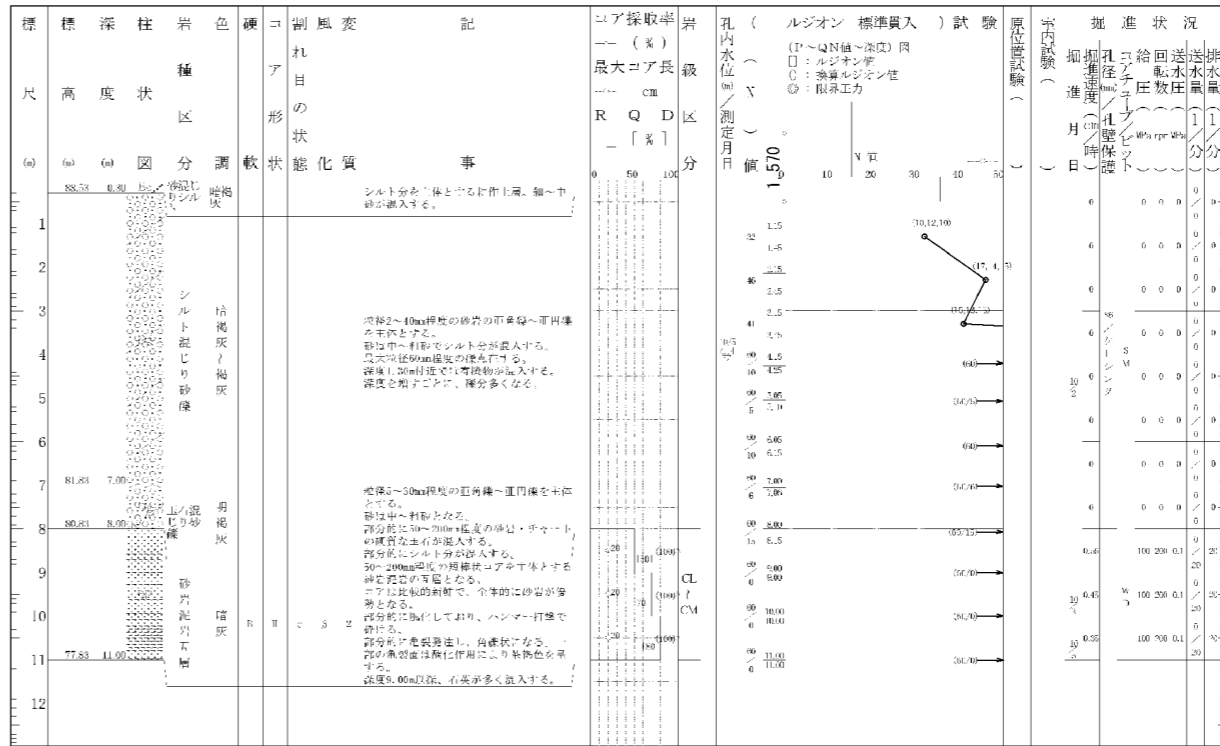
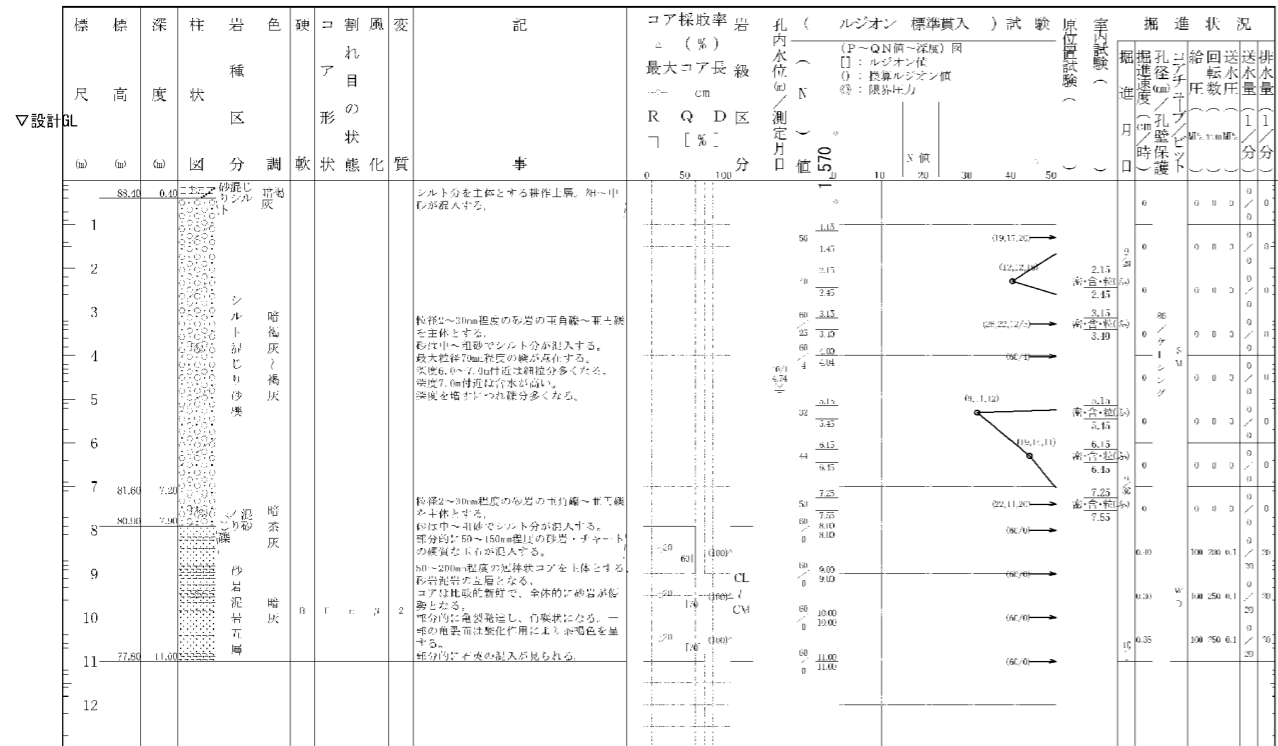
ボーリングNo. 1

調査名 令和2年度 那賀町学校給食センター用地調査及び造成工事測量設計委託業務

ボーリングNo. 2

ボーリング名	No. 1	調査位置	徳島県那賀郡那賀町延野大原	北緯	33° 49' 17"
発注機関	那賀町教育委員会	調査期間	令和2年9月29日～2022年10月1日	東経	134° 29' 20"
調査業者名	株式会社エヌ・ピー・シー 電話(0883-52-1621)	主任技師	前田 博志	現場代理人	貝出 正悟
孔口標高	88.80m	角	180°	方	北0°
総掘進長	11.00m	度	0°	向	180° 南
地盤勾配	水平0°	試錐機	東邦D-1	ポンプ	東邦BG-3型
エンジン	クボタER-80				

ボーリング名	No. 2	調査位置	徳島県那賀郡那賀町延野大原	北緯	33° 49' 18"
発注機関	那賀町教育委員会	調査期間	令和2年10月2日～2022年10月5日	東経	134° 28' 58"
調査業者名	株式会社エヌ・ピー・シー 電話(0883-52-1621)	主任技師	前田 博志	現場代理人	貝出 正悟
孔口標高	88.80m	角	180°	方	北0°
総掘進長	11.00m	度	0°	向	180° 南
地盤勾配	水平0°	試錐機	東邦D-1	ポンプ	東邦地下工機BG-3
エンジン	クボタER-80				

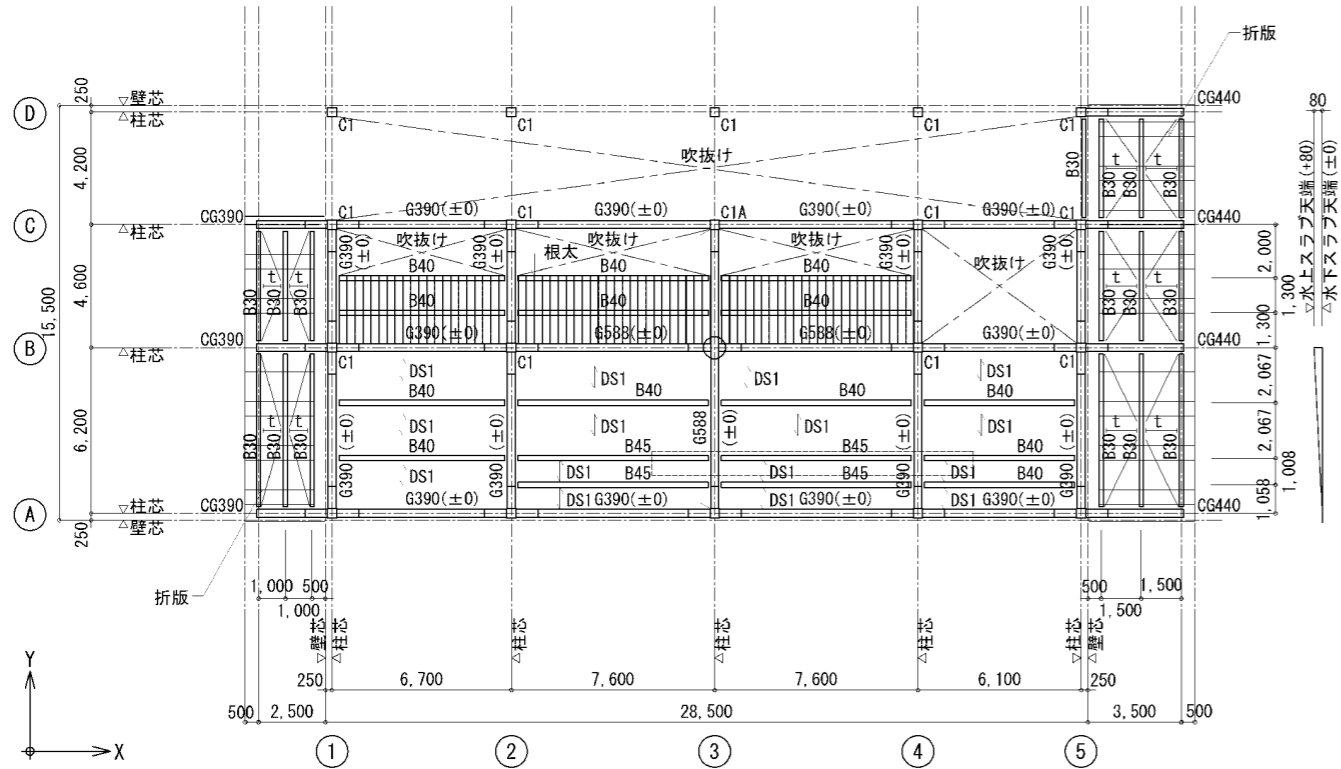
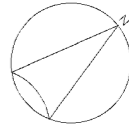
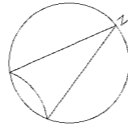


構造設計及び法適合確認を行った者
一級建築士 第338155号
構造設計一級建築士 第 9525号
久保田 謙三

記 事	工事名称	令和3年度(令和2線)学校施設環境改善交付金 那賀町学校給食センター新築工事	日付		No.		図面番号	S009	設計番号	
	図面名称	ボーリング柱状図	縮尺	—	設計	製図	校閲			

※A3版は71%出力とする。

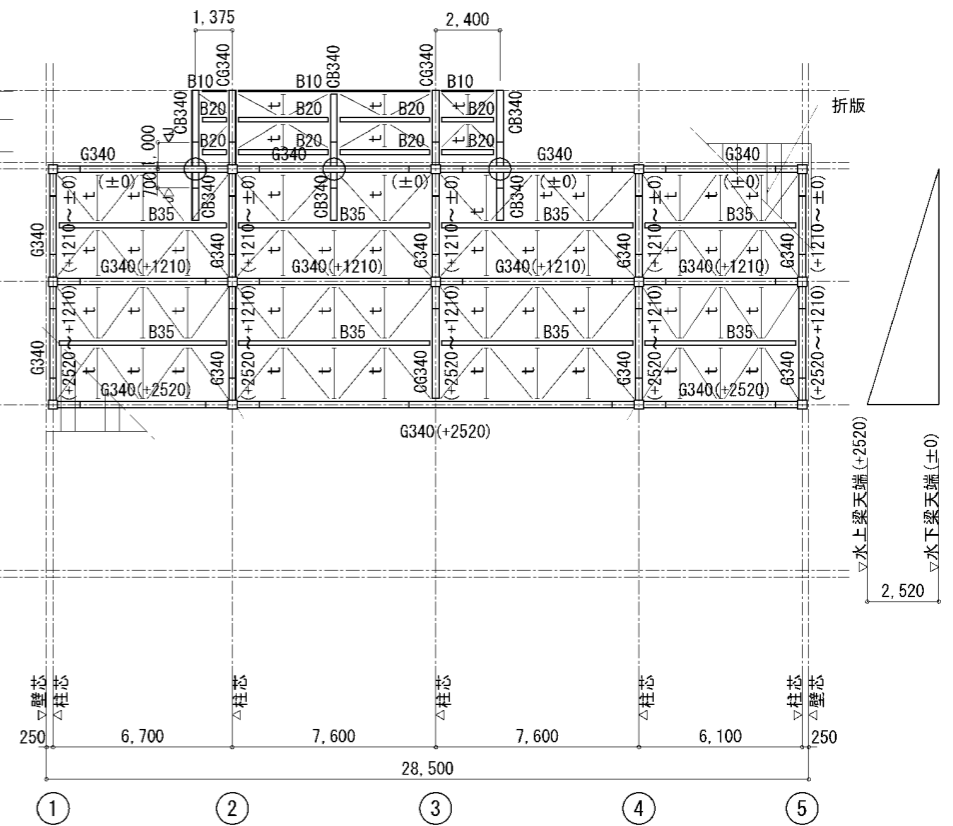
株式会社 四電技術コンサルタント
1級建築士事務所 徳島県登録第71037号
管理建築士 片山 有史
1級建築士登録第272193号



M1階床梁伏図 S=1/200

特記なき限り下記による

1. 梁天端(水下)は、1FL+3900とする。
2. 大梁Joint位置は、柱芯+1000とする。
3. ◁ は、デッキプレート敷き込み方向を示す。
4. ⊕ は、剛接合を示す。
5. ()内の数字は、水下からの梁天端位置とする。
6. ◁ は、水平ブレースを示し HV1 とする。
7. □ は、設備基礎を示す。
8. 根太材としてC-100x50x20x2.3@455を設ける。(①-④, ②-③間)




R階床梁伏図 S=1/200

特記なき限り下記による

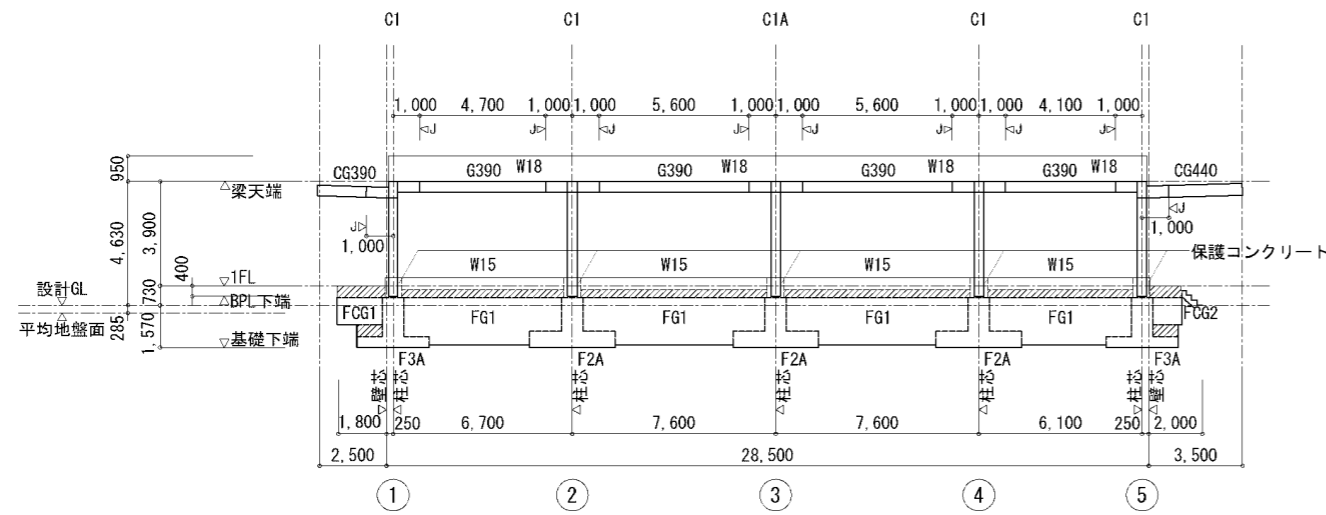
1. RFL(水下)は、1FL+3980とする。
2. 大梁Joint位置は、柱芯+1000とする。
3. <J は、Joint位置を示す。
4. ⊕ は、剛接合を示す。
5. ()内の数字は、RFLからの梁天端位置とする。
6. 小梁天端は、大梁天端+50mmとする。
7. ◁ は、水平ブレースを示し HV1 とする。
8. 天井受け材としてC-100x50x20x2.3@900を設ける。

構造設計及び法適合確認を行った者

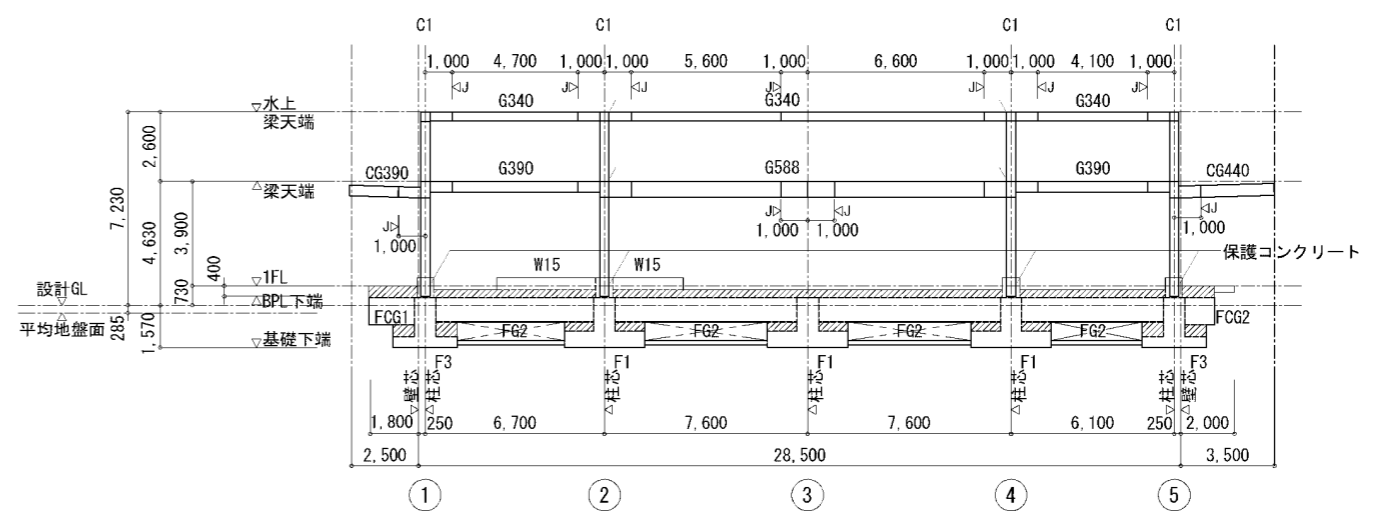
一級建築士 第338155号
構造設計一級建築士 第 9525号
久保田 謙三

記 事	工事名称	令和3年度(令和2線)学校施設環境改善交付金 那賀町学校給食センター新築工事	日付	No.	図面番号	設計番号	 四国技術コンサルタント 株式会社 1級建築士事務所 徳島県登録第71037号 管理建築士 片山 有史 1級建築士登録第272193号
	図面名称	M1階床梁伏図, R階床梁伏図	縮尺	設計	製図	校閲	

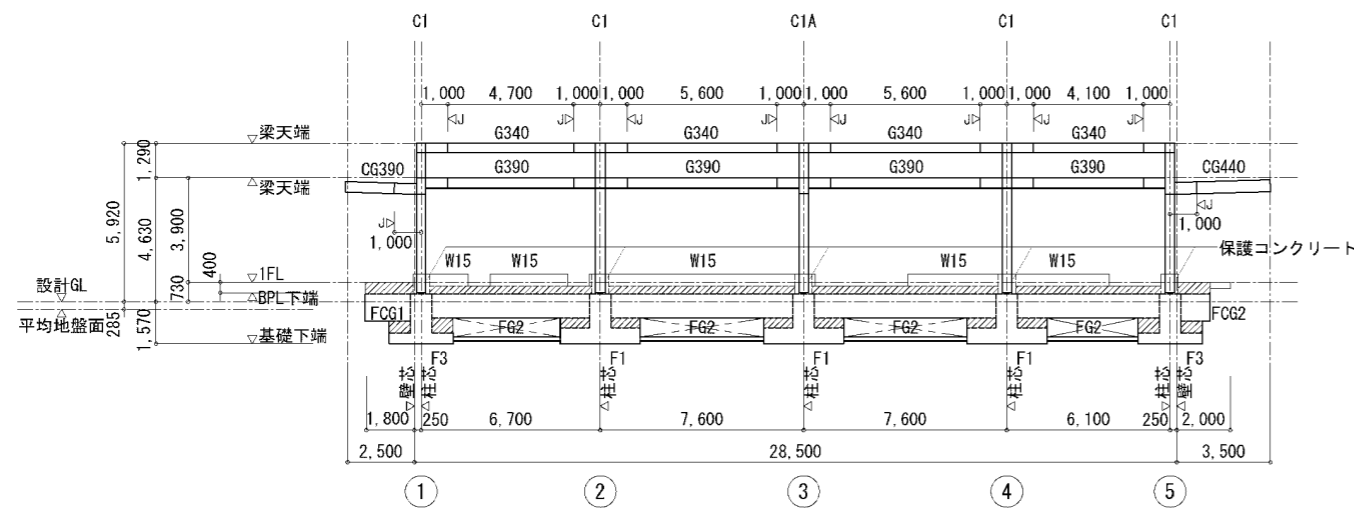
※A3版は71%出力とする。



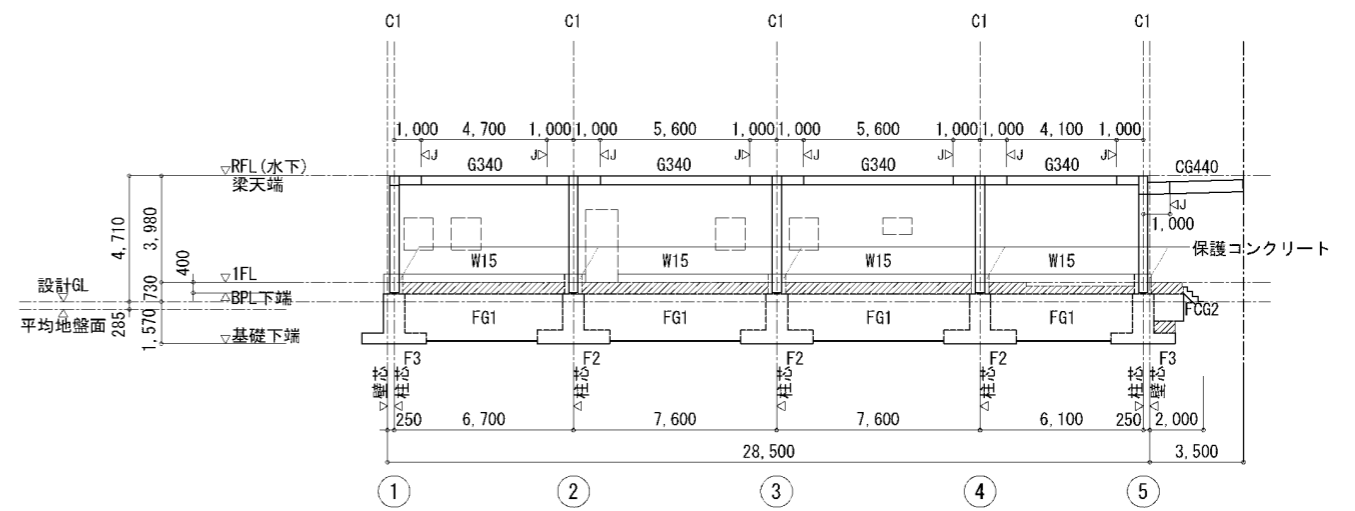
(A) 通り軸組図 S=1/200



(B) 通り軸組図 S=1/200



(C) 通り軸組図 S=1/200




(D) 通り軸組図 S=1/200

特記なき限り下記による

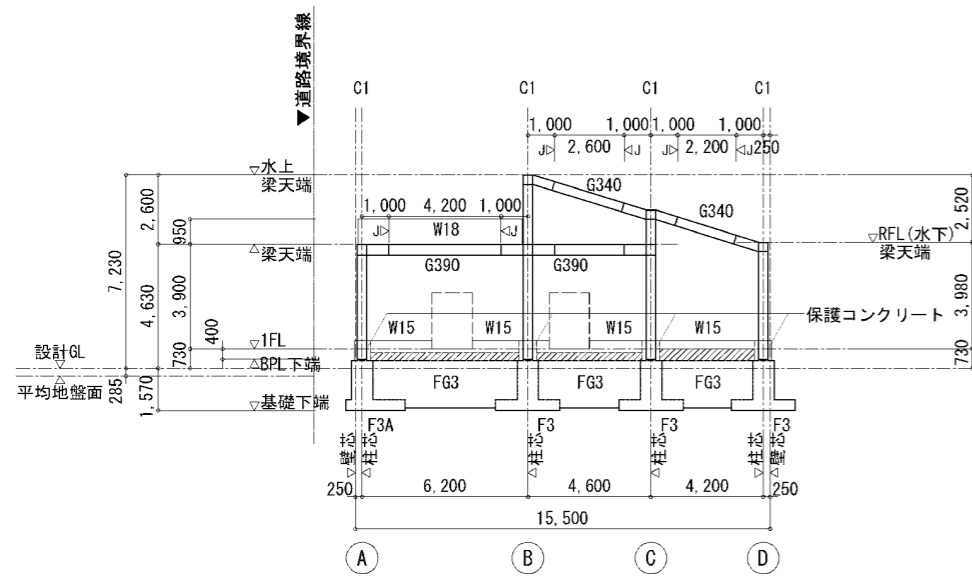
1. <J> : Joint位置を示す。
2. // : 増打ちを示す。
3. W15(腰壁)の高さは、1FL+300とする。
4. 基礎梁天端は1FL-450とする。

構造設計及び法適合確認を行った者

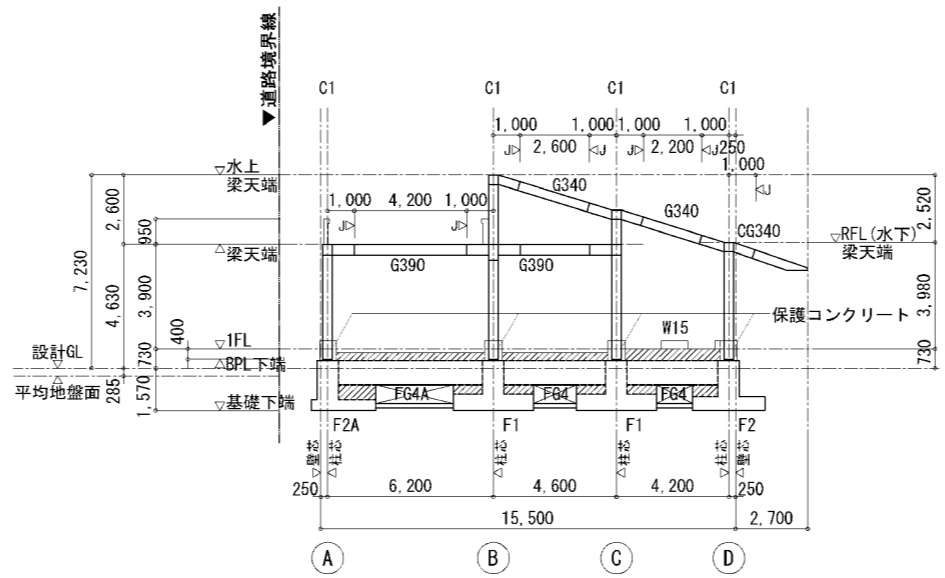
一級建築士 第338155号
 構造設計一級建築士 第 9525号
 久保田 謙三

記 事	工事名称	令和3年度(令和2繰)学校施設環境改善交付金 那賀町学校給食センター新築工事	日付	No.	図面番号 S012	設計番号	 四電技術コンサルタント 株式会社 1級建築士事務所 徳島県登録第71037号 管理建築士 片山 有史 1級建築士登録第272193号
	図面名称	軸組図(1)	縮尺	設計	製図	校閲	

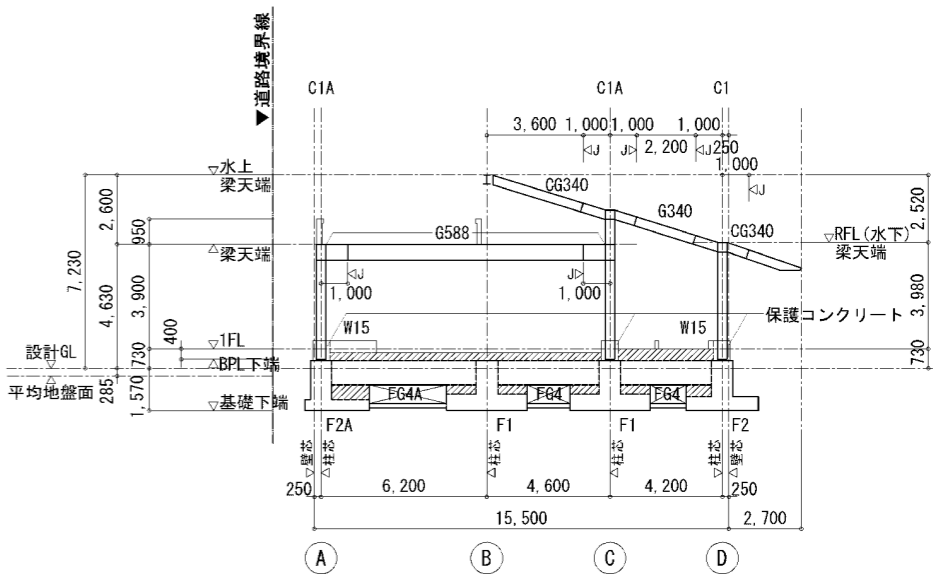
※A3版は71%出力とする。



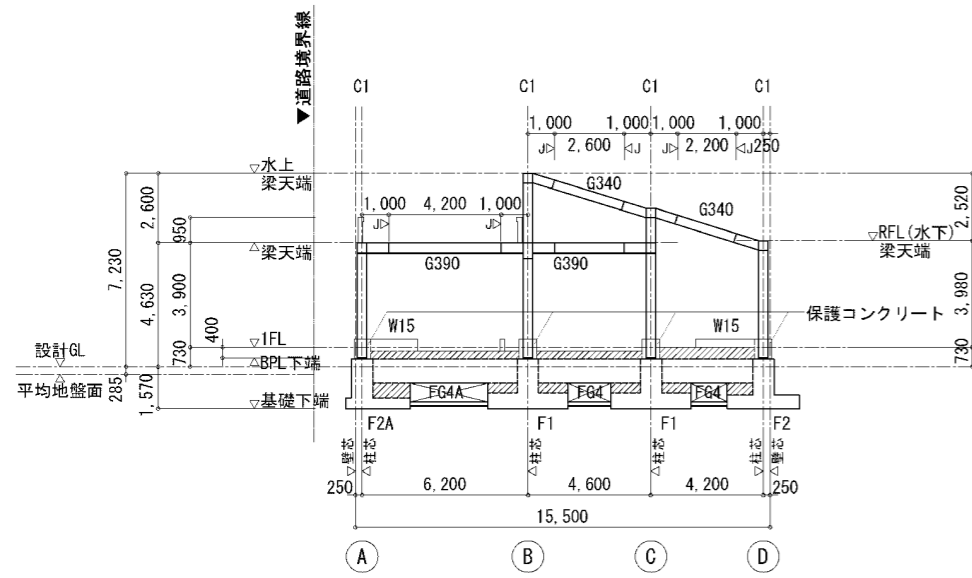
① 通り軸組図 S=1/200



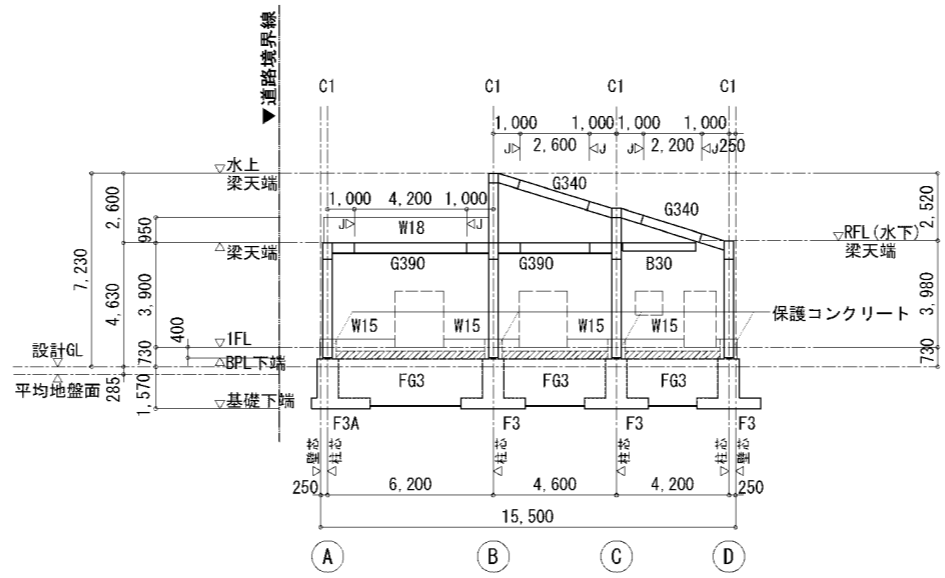
② 通り軸組図 S=1/200



③ 通り軸組図 S=1/200



④ 通り軸組図 S=1/200



⑤ 通り軸組図 S=1/200

- 特記なき限り下記による
- ◁J : Joint位置を示す。
 - //// 増打ちを示す。
 - W15(腰壁)の高さは、1FL+300とする。
 - 基礎梁天端は1FL-450とする。

構造設計及び法適合確認を行った者

一級建築士 第338155号
構造設計一級建築士 第 9525号
久保田 謙三

四電技術コンサルタント

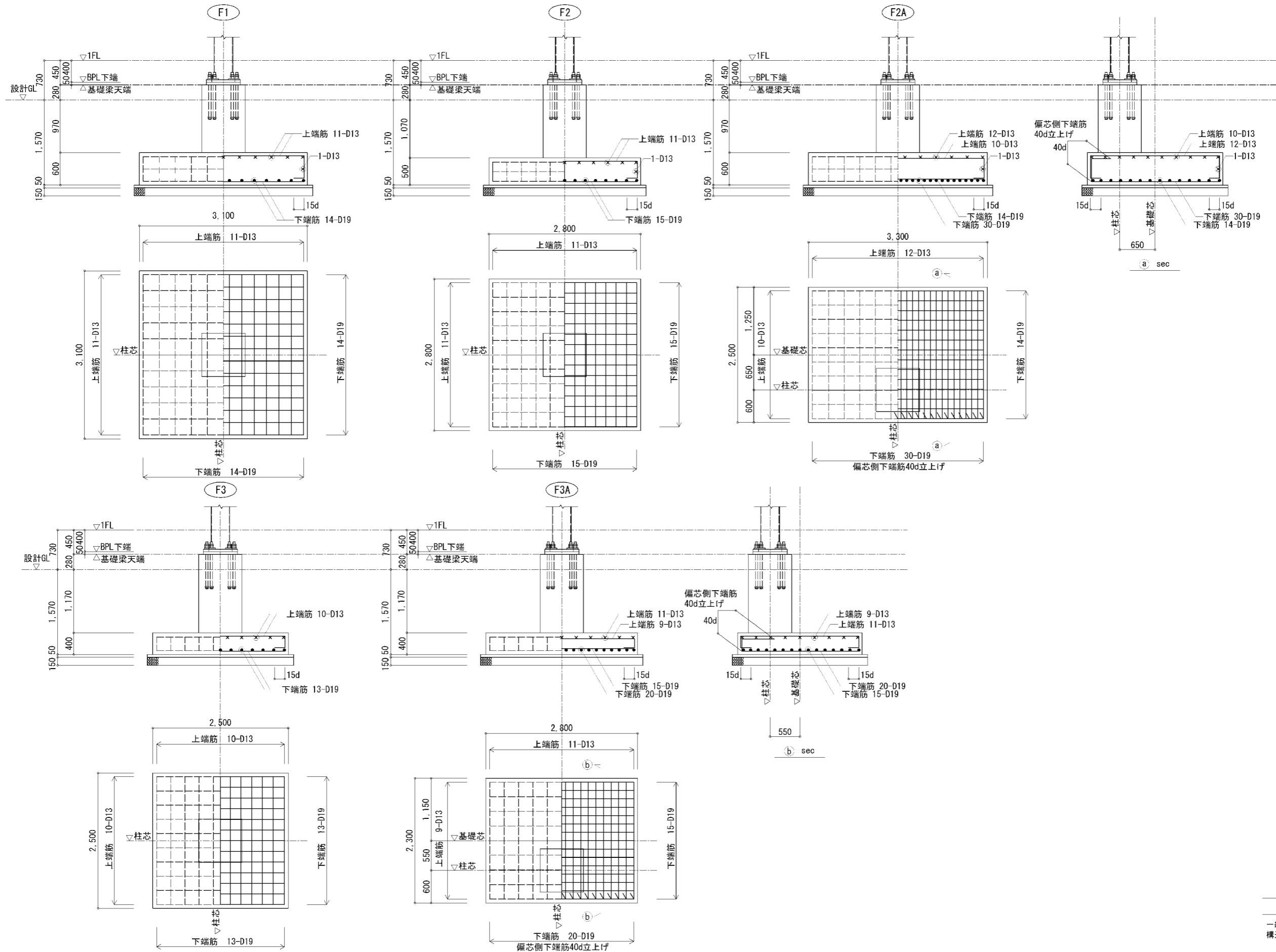
1級建築士事務所 徳島県登録第71037号
管理建築士 片山 有史
1級建築士登録第272193号

工事名称	令和3年度(令和2線)学校施設環境改善交付金 那賀町学校給食センター新築工事	日付	No.	図面番号	設計番号
図面名称	軸組図(2)	縮尺	設計	製図	校閲
		1/200		S013	

※A3版は71%出力とする。

特記なき限り下記による

1. コンクリート設計基準強度 Fc24
2. 鉄筋材質は、D19:SD345, D13~D16:SD295Aとする。



構造設計及び法適合確認を行った者

一級建築士 第338155号
 構造設計一級建築士 第 9525号
 久保田 謙三

記
 事
 ※A3版は71%出力とする。

工事名称	令和3年度(令和2線)学校施設環境改善交付金 那賀町学校給食センター新築工事
図面名称	基礎リスト

日付	No.	図面番号	設計番号
		S014	
縮尺	設計	製図	校閲
1/50			

株式会社 四電技術コンサルタント

1級建築士事務所 徳島県登録第71037号
 管理建築士 片山 有史
 1級建築士登録第272193号

基礎梁リスト S=1/50

特記なき限り下記による

1. コンクリート設計基準強度 F_c24
2. 鉄筋材質は、D25:SD345, D13~D16:SD295Aとする。
3. 巾止め筋は、 \curvearrowright D10@1000以内とする。

符号	FG1	FG2	FG3	FG4	FG4A
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断面					
B x D	450x1650	600x950	450x1650	600x950	800x950
上端筋	6-D25	10-D25	6-D25	8-D25	15-D25
下端筋	6-D25	10-D25	6-D25	8-D25	15-D25
S T P	□-D13@200	4□-D13@150	□-D13@200	□-D13@200	4□-D13@150
腹筋	8-D13	4-D13	8-D13	4-D13	4-D13

基礎梁主筋配置要領図

梁増打ちコンクリート補強筋要領図

梁の打増補強配筋は下図より、増打ち幅 (a) が70mm以上の場合に適用する。
なお、小梁、耐力壁及びスラブの鉄筋の定着長さは、増打ち部分を除いて算定する。

基礎小梁リスト S=1/50

特記なき限り下記による

1. コンクリート設計基準強度 F_c24
2. 鉄筋材質は、D19~D25:SD345, D13~D16:SD295Aとする。
3. 巾止め筋は、 \curvearrowright D10@1000以内とする。

符号	FCG1		FCG2	B1	B2	FB1	FCB1
位置	元端	先端	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断面							
B x D	500x1000		500x1000	400x800	400x700	400x1000	400x1000
上端筋	7-D22	5-D22	7-D19	6-D19	5-D19	5-D19	5-D19
下端筋	5-D22	5-D22	5-D19	6-D19	5-D19	5-D19	4-D19
S T P	□-D13@200		□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200
腹筋	4-D13		4-D13	2-D13	2-D13	2-D13	4-D13

スラブリスト

特記なき限り下記による

1. 鉄筋材質は、D10~D13:SD295Aとする。

符号	版厚	位置	主筋方向	配筋方向	備考
S15	150	上端筋	D10D13@200	D10D13@200	
		下端筋	D10@200	D10@200	
S15A	150	上端筋	D13@200	D13@200	
		下端筋	D10@200	D10@200	
CS15	150	上端筋	D13@200	D10D13@200	
		下端筋	D10@200	D10@200	

構造設計及び法適合確認を行った者

一級建築士 第338155号
構造設計一級建築士 第 9525号
久保田 謙三

記
事

工事名称	令和3年度(令和2線)学校施設環境改善交付金 那賀町学校給食センター新築工事	日付	No.	図面番号	設計番号	四電技術コンサルタント 株式会社 1級建築士事務所 徳島県登録第71037号 管理建築士 片山 有史 1級建築士登録第272193号
図面名称	基礎梁リスト、基礎小梁リスト	縮尺	設計	製図	校閲	

※A3版は71%出力とする。

鉄骨部材リスト

特記事項

1. 特記なき部材の鋼材種別はSS400とする。
2. 高力ボルトの種類はF10T又はS10Tとする。

符号	階数	部材	備考
C1	1~M1F	□-350x350x12 (BCR295)	ベースパック 35-16R
C1A	M1F	□-350x350x12 (BCR295)	ベースパック 35-16R
	1F	□-350x350x14 (BCR295)	

符号	部材	ピン接合部				備考
		TYPE	HTB	nw	GPL	
G340	H-340x250x 9x14	-	-	-	-	SN400B
G390	H-390x300x10x16	-	-	-	-	SN400B
G588	H-588x300x12x20	-	-	-	-	SN400B
CG340, CB340	H-340x250x 9x14	-	-	-	-	SN400B
CG440	H-440x300x11x18	-	-	-	-	SN400B
CG390	H-390x300x10x16	-	-	-	-	SN400B
B10	H-100x 50x 5x 7	D	M20	2	GPL- 6	
B20	H-200x100x5. 5x8	C	M20	2	GPL- 6	
B30	H-300x150x6. 5x9	C	M20	3	GPL- 9	
B35	H-350x175x 7x11	C	M20	4	GPL- 9	
B40	H-400x200x 8x13	C	M20	4	GPL- 9	
B45	H-450x200x 9x14	C	M20	5	GPL- 9	
屋根ブレース HV1	1-M27		M20	2	PL- 12	ターンバックル付、FB-9x90x265
t	[-100x50x5x7. 5		M20	3	PL- 9	座屈止め参照

鉄骨継手表

特記事項

1. 特記なき部材の鋼材種別はSN400Bとする。
2. 高力ボルトの種類はS10Tとする。
3. 継手はSCSS-H97による。

部材	TYPE	HTB	FLANGE (SPL-tfxW1xL1)			WEB (SPL-twXW2xL2)		
			HTB	SPL-(1)	SPL-(2)	nw	g3	SPL-(3)
H-340x250x 9x14	A	M20	4x2	SPL-12x250x530	SPL-12x100x530	3x2	60	2SPL- 9x200x290
H-390x300x10x16	B	M20	4x2	SPL-12x300x440	SPL-12x110x440	4x1	60	2SPL- 9x260x170
H-440x300x11x18	B	M20	4x2	SPL-12x300x440	SPL-12x110x440	5x1	60	2SPL- 9x320x170
H-588x300x12x20	B	M22	4x2	SPL-12x300x440	SPL-16x110x440	7x1	60	2SPL- 9x440x170

梁 Joint標準

TYPE-A

TYPE-B

TYPE-C (ピン接合の場合)

TYPE-D (ピン接合の場合)

B	g1	g2	B	g1	g2	HTB	P1	P2	e
125シリーズ	75	90	200シリーズ	120	150	M16	60	45	40
150シリーズ	90	105	250シリーズ	150	180	M20	60	45	40
175シリーズ	105	120	300シリーズ	150	180	M22	60	45	40

デッキスラブリスト

DS1

※単純支持の場合は耐火補強筋D13@300を配筋すること

DS1の受け梁上端スリット部要領図

1/20

註: ()内数値は、大梁の場合のピッチを示す

B < 250

B ≥ 250

座屈止め

1/30

t材 取付け位置

	小梁	大梁
金属屋根部分	上端	中央

構造設計及び法適合確認を行った者

一級建築士 第338155号
構造設計一級建築士 第 9525号
久保田 謙三

記
事

工事名称
令和3年度(令和2線)学校施設環境改善交付金
那賀町学校給食センター新築工事

日付

No.

図面番号
S016

設計番号

株式会社 四電技術コンサルタント

図面名称
部材リスト(1)

縮尺

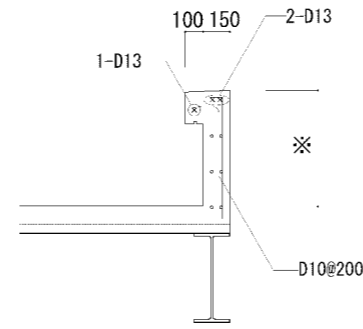
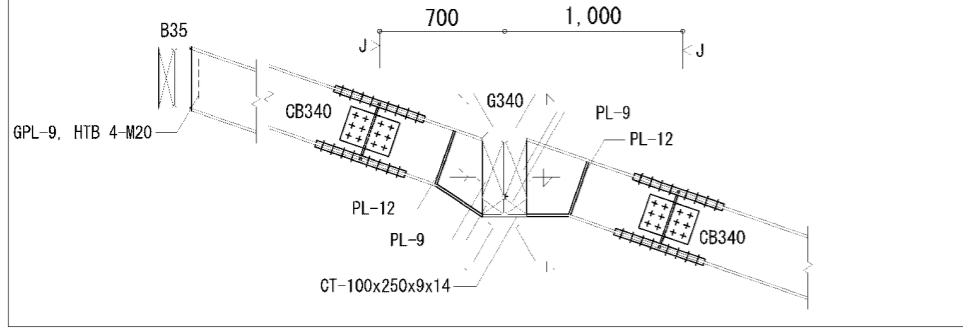
設計

製図

校閲

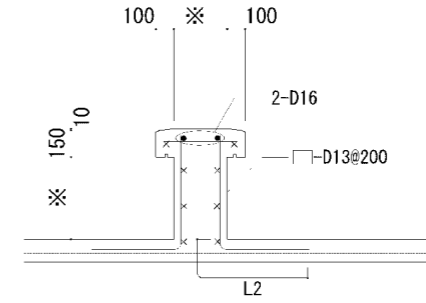
1級建築士事務所 徳島県登録第71037号
管理建築士 片山 有史
1級建築士登録第272193号

※A3版は71%出力とする。



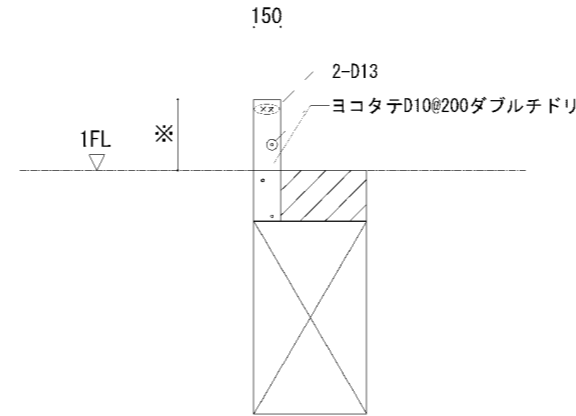
※の寸法は意匠図による

パラペット詳細図 1:30



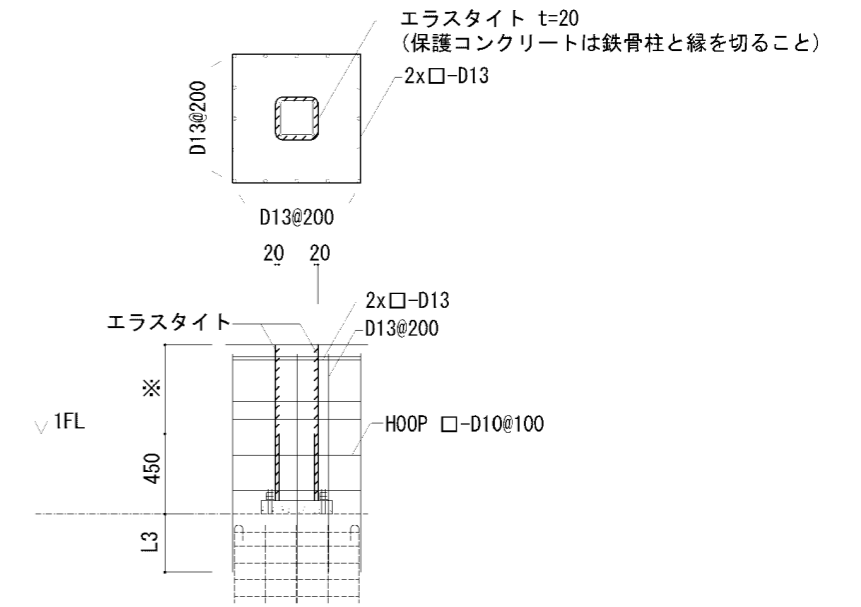
※の寸法は意匠図による

機械基礎詳細図 1:30



※の寸法は意匠図による

W15 配筋要領 1:30



※の寸法は意匠図による

保護コンクリート 配筋要領 1:30

構造設計及び法適合確認を行った者

一級建築士 第338155号
構造設計一級建築士 第 9525号
久保田 謙三

記事

工事名称
令和3年度(令和2繰)学校施設環境改善交付金
那賀町学校給食センター新築工事

日付

No.

図面番号
S017

設計番号

株式会社 四電技術コンサルタント

1級建築士事務所 徳島県登録第71037号
管理建築士 片山 有史
1級建築士登録第272193号

図面名称
部材リスト(2)

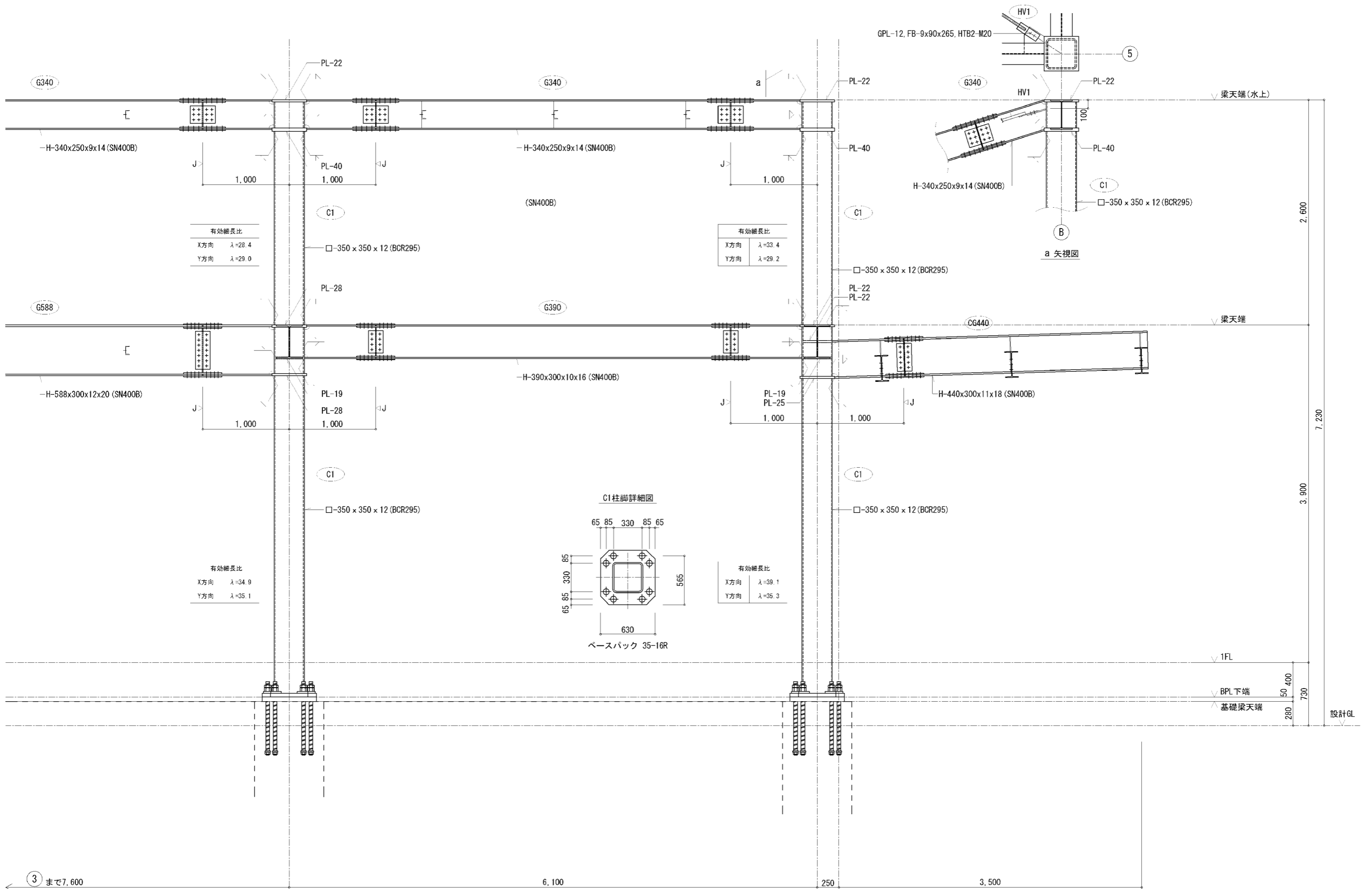
縮尺
—

設計

製図

校閲

※A3版は71%出力とする。



B 通り架構詳細図 S=1/30

特記なき限り下記による
 ・鋼材種別はSS400とする
 ・通しダイヤフラムはSN490C、内ダイヤフラムはSN490Bとする。
 ・通しダイヤフラム:2サイズアップ
 ・内ダイヤフラム :1サイズアップ
 ・ボルト: HTB F10TまたはS10T
 ・折版を受ける大梁天端にはC-100x50x20x2.3を取付

構造設計及び法適合確認を行った者
 一級建築士 第338155号
 構造設計一級建築士 第 9525号
 久保田 謙三

記 事	工事名称	令和3年度(令和2線)学校施設環境改善交付金 那賀町学校給食センター新築工事	日付	No.	図面番号 S018	設計番号	四電技術コンサルタント 株式会社 1級建築士事務所 徳島県登録第71037号 管理建築士 片山 有史 1級建築士登録第272193号
	図面名称	架構詳細図	縮尺	設計	製図	校閲	

※A3版は71%出力とする。

QLデッキ合成スラブ設計・施工標準 耐火仕様① JFE 建材 株式会社

合成スラブ工業会仕様

【耐火認定FP60FL-9095, 9101, FP120FL-9107, 9113用】

QLデッキ合成スラブの設計・施工は、(社)日本建築学会「各種合成構造設計指針・同解説」、「鉄骨工事技術指針」、「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5鉄筋コンクリート工事及びJASS6鉄骨工事」、(一社)日本鋼構造協会「デッキプレート床構造設計・施工標準 2018」、合成スラブ工業会「合成スラブの設計・施工マニュアル」、QLデッキ設計マニュアル・同施工マニュアルによる。

設計

材料/デッキプレート		[ISO 9001認証取得]	
デッキプレート種類	板厚(mm)	表面処理	
QLデッキ	■ 1.2 ■ 1.6	□ 表面防錆処理(一次塗装) ¹⁾ QLプライマー(P) ■ 亜鉛めっき □ Z12 ■ Z27 □ JFEエポキド(高耐食溶融めっき鋼板) □ Y18 □ Y27 □ その他() □無し	
端部加工	■ エポキド有り □無し		

*1 現場搬入までの一次防錆 (JIS K 5621 2種または3種相当)

材質 JIS G 3352に定めるSDP1T, SDP2, SDP2G

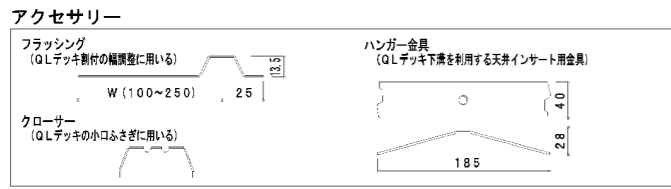
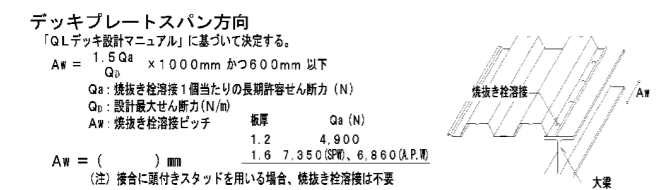
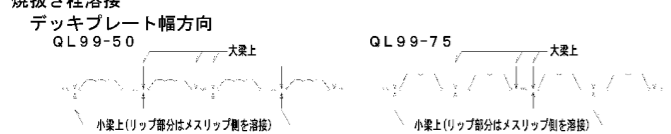
材料/コンクリート	
種類	■ 普通コンクリート □ 軽量コンクリート (□1種 □2種)
設計基準強度	□ 18 ■ 21 □ () N/mm ²
厚さ(QLデッキ山)	□ 60 □ 70 ■ 80 □ 85 □ 90 □ 95 □ 100 □ () mm

材料/溶接金網・異形鉄筋	
溶接金網	JIS G 3551 ■ φ6-150×150 □ φ6-100×100
異形鉄筋	JIS G 3112, 3117 □ D10-200×200 □ ()

接合	
焼抜き栓溶接	下階焼抜き栓溶接の項による
打込み継	接合箇所は特記による
頭付きスタッド	JIS B 1198 □ φ13 □ φ16 □ φ19 □ φ22 各長さ・ピッチは特記による ※差の長さはデッキ高さ+30mm以上とする。
その他	□ () □ () □ ()

耐火	
連続支持	■ FP60FL-9095 □ FP120FL-9107
単断支持	■ FP60FL-9101 □ FP120FL-9113
その他	□ () □ () □ ()

特記	
支保工有無	□無し □有
その他	□ () □ () □ ()



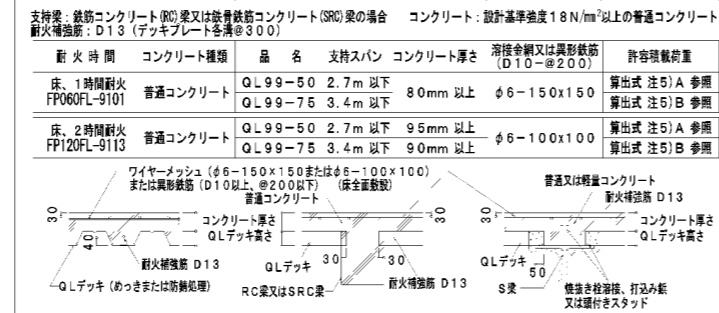
施工順序		敷込み	
敷出し	鉄骨の場合 1) 敷出し順に合わせて1枚目のデッキプレートを仮止め溶接した後、順次適宜枚数(5~10枚)ごとに仮止め溶接する。 2) 各大梁上にデッキプレートの満調が保てるように敷込む。	鉄骨の場合 1) 頭付きスタッド 2) 打込み継 3) 焼抜き栓溶接 4) 溶接金網敷込み 5) 検査 6) コンクリート打設	RC梁またはSRC梁の場合 1) デッキプレートは梁型枠に止める。 2) デッキプレートの梁型枠へのみ込み代が幅方向10mm以上、長手方向が30mmあることを確認する。

施工時許容スパン表 (デッキプレートの検討)	
QL99-50 (単位: mm)	QL99-75 (単位: mm)
コンクリート厚(mm)	コンクリート厚(mm)
板厚(mm)	板厚(mm)
単断(内法)	単断(内法)
2連続	2連続
3連続	3連続

耐火仕様

【連続支持合成スラブ】						
耐火時間	コンクリート種類	品名	支持スパン	コンクリート厚さ	溶接金網又は異形鉄筋(D10-φ200)	許容積載荷重
床、1時間耐火	普通コンクリート	QL99-50	3.0m以下	80mm以上	φ6-150×150	算出式注5)A参照 算出式注5)B参照
床、2時間耐火	普通コンクリート	QL99-75	3.4m以下	90mm以上	φ6-100×100	算出式注5)A参照 算出式注5)B参照
床、2時間耐火	軽量コンクリート	QL99-50	3.0m以下	80mm以上	φ6-150×150	算出式注5)A参照 算出式注5)B参照
床、2時間耐火	普通コンクリート	QL99-50	2.7m以下	95mm以上	φ6-100×100	算出式注5)A参照 算出式注5)B参照
床、2時間耐火	普通コンクリート	QL99-75	3.4m以下	95mm以上	D10-φ200	算出式注5)A参照 算出式注5)B参照
床、2時間耐火	軽量コンクリート	QL99-50	2.7m以下	85mm以上	φ6-100×100	算出式注5)A参照 算出式注5)B参照
床、2時間耐火	軽量コンクリート	QL99-75	3.4m以下	90mm以上	D10-φ200	算出式注5)A参照 算出式注5)B参照

【単純支持合成スラブ】						
耐火時間	コンクリート種類	品名	支持スパン	コンクリート厚さ	溶接金網又は異形鉄筋(D10-φ200)	許容積載荷重
床、1時間耐火	普通コンクリート	QL99-50	2.7m以下	80mm以上	φ6-150×150	算出式注5)A参照 算出式注5)B参照
床、1時間耐火	普通コンクリート	QL99-75	3.4m以下	90mm以上	φ6-100×100	算出式注5)A参照 算出式注5)B参照
床、2時間耐火	普通コンクリート	QL99-50	2.7m以下	95mm以上	φ6-100×100	算出式注5)A参照 算出式注5)B参照
床、2時間耐火	普通コンクリート	QL99-75	3.4m以下	90mm以上	φ6-100×100	算出式注5)A参照 算出式注5)B参照

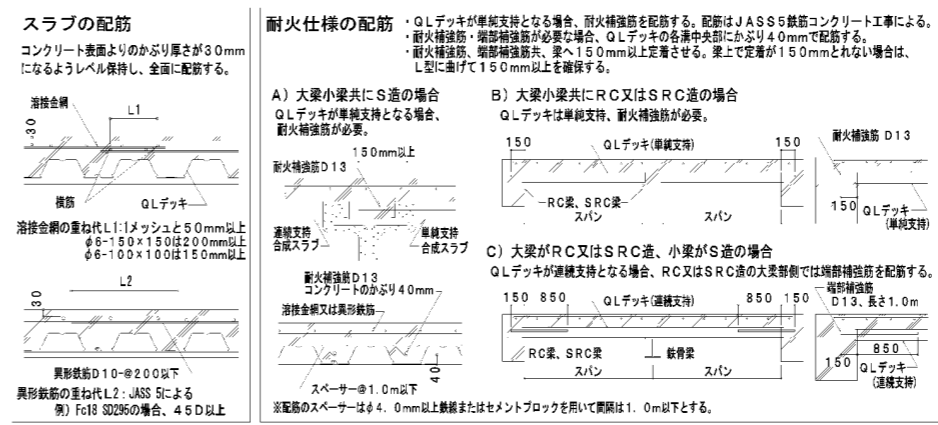
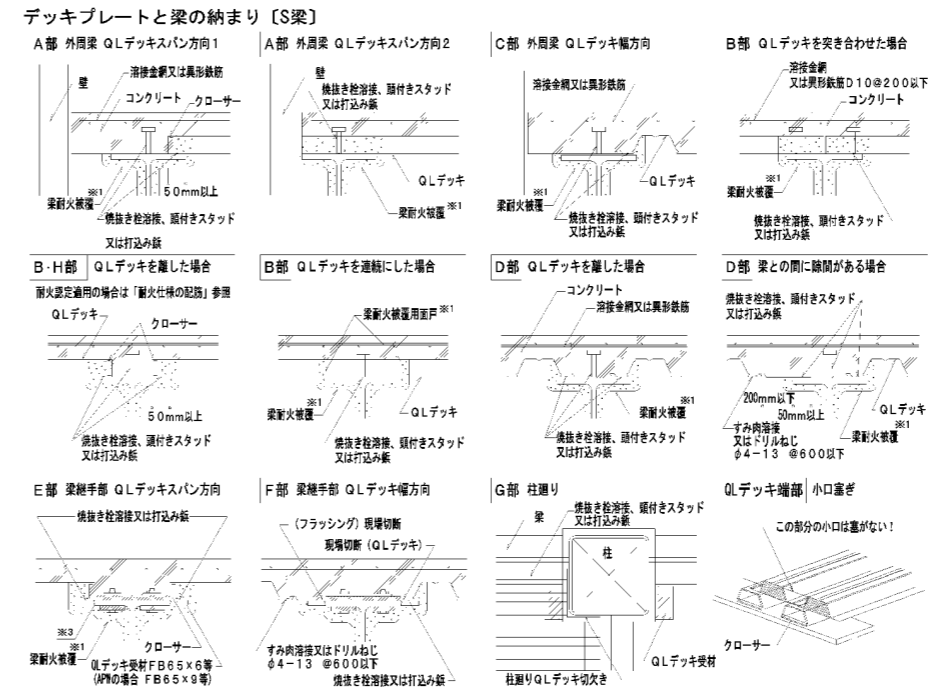
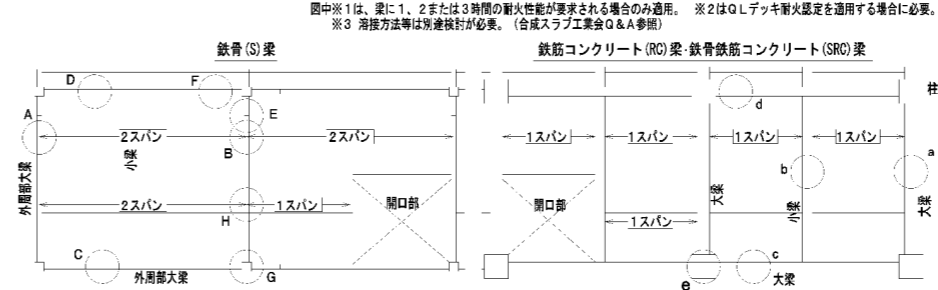


付帯条件	
連続支持合成スラブの場合、デッキプレートは2スパン以上にわたって連続的に小はり等によって、ほぼ等間隔(スパン比3:2を超えない程度)で支持されるものとする。	合成スラブ工業会発行「合成スラブの設計・施工マニュアル」参照

デッキプレートと梁との接合

焼抜き栓溶接 [SPW] - アーク手溶接 -		自動焼抜き栓溶接 [A.P.W] - CO2アークスポット溶接 -	
工程	手順・要領	工程	手順・要領
1 アーク発生	QLデッキを梁になじませ(隙間2mm以下)溶接棒をQLデッキに垂直にしてアークを発生させる。	1	アーク発生 QLデッキを梁になじませ(隙間2mm以下)溶接棒をQLデッキに垂直にしてアークを発生させる。
2 QLデッキ焼き	溶接棒を若干引き上げてアークを飛ばし、(10mm前後)の平を描いてQLデッキを焼き、溶接棒を梁上まで押し込み、焼き残の内側をなめるように中央へ2~3回転しながら運搬。	2	溶接棒の消費量 溶接棒の消費量: 18KVA以上 3割 200V 3割 200V 3割 200V
3 押し込み・溶着	溶接棒を梁上まで押し込み、焼き残の内側をなめるように中央へ2~3回転しながら運搬。	3	溶接棒の消費量 溶接棒の消費量: 18KVA以上 3割 200V 3割 200V 3割 200V
4 整形	溶接棒を梁上まで押し込み、焼き残の内側をなめるように中央へ2~3回転しながら運搬。	4	溶接棒の消費量 溶接棒の消費量: 18KVA以上 3割 200V 3割 200V 3割 200V

標準納まり

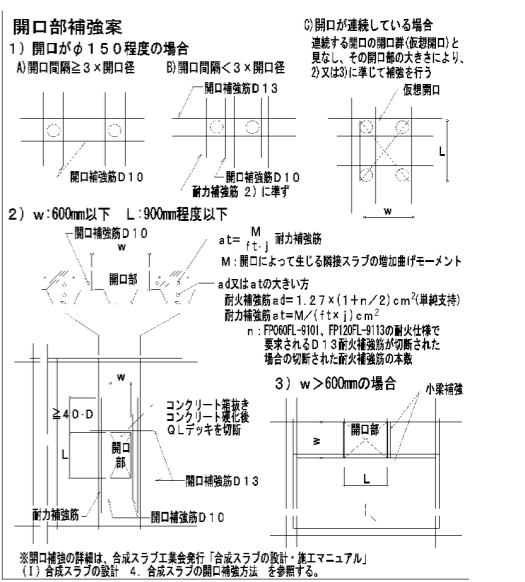
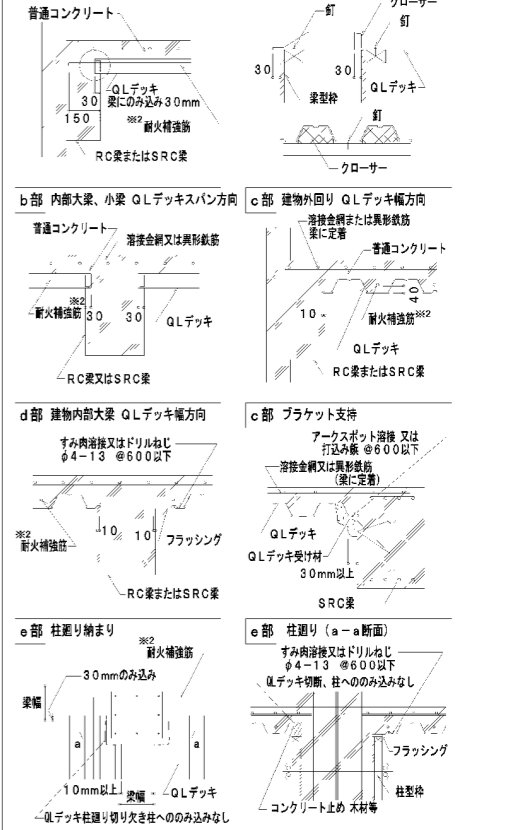


検査

【焼抜き栓溶接 (SPW) 及び自動焼抜き栓溶接 (A.P.W)]	
事前検査	SPW: 適正な溶接を行うため下記(1)または(2)の方法で電流値をチェックする。 1) 設計時の計画 2) 溶接棒の消費量による確認 A.P.W: 試し溶接を行った後溶接を確認する。
溶接後の外観検査	1) 溶接面の確認 2) 焼き切れ、余剰り不足の有無 3) 溶接棒の消費量 A.P.Wの場合: 溶接棒の消費量が4.5~5.3mmであることを確認する。
【その他】	① QLデッキ相互の嵌合状況 ② ひび割れ拡大防止の敷込み状況 ③ 開口部の補強状況

ひび割れ拡大防止のための留意事項	
① 設計上の留意点	② 施工上の留意点
1) 小梁の剛性を大きくする。 2) ひび割れ拡大防止のための補強筋を配筋する。(右図参照) 3) スパンとスラブ厚さの比を小さくし、配筋量を大きくする。 4) デッキプレートは各端で梁に適合すること。 5) 頭付きスタッド使用の場合にも、デッキプレート各端全てをアークスポット溶接が望ましい。	1) 水セメント比を小さくする。 2) 単位水重 170リットル/m ³ 以下 3) ベースコンクリートスラブ 10cm スラブ 15cm 4) 溶接金網の位置 - かぶり厚30mmを確保する。(補強筋は溶接金網より下に配筋する) 5) コンクリート打込み後1週間は乾燥作業を行わない。多量程度は可。 6) 打込み後初期には散水や養生シート等で湿度を維持する。 7) 直射日光が当たる屋上は、散水養生は必須。 8) 打込み後4~7日間はスラブに運動や荷重を加えないようにし、充分な養生期間を設ける。

デッキプレートと梁の納まり [RC・SRC梁]

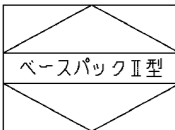


検査

ひび割れ拡大防止のための留意事項	
① 設計上の留意点	② 施工上の留意点
1) 小梁の剛性を大きくする。 2) ひび割れ拡大防止のための補強筋を配筋する。(右図参照) 3) スパンとスラブ厚さの比を小さくし、配筋量を大きくする。 4) デッキプレートは各端で梁に適合すること。 5) 頭付きスタッド使用の場合にも、デッキプレート各端全てをアークスポット溶接が望ましい。	1) 水セメント比を小さくする。 2) 単位水重 170リットル/m ³ 以下 3) ベースコンクリートスラブ 10cm スラブ 15cm 4) 溶接金網の位置 - かぶり厚30mmを確保する。(補強筋は溶接金網より下に配筋する) 5) コンクリート打込み後1週間は乾燥作業を行わない。多量程度は可。 6) 打込み後初期には散水や養生シート等で湿度を維持する。 7) 直射日光が当たる屋上は、散水養生は必須。 8) 打込み後4~7日間はスラブに運動や荷重を加えないようにし、充分な養生期間を設ける。

【同等品使用可】	
構造設計及び法適合確認を行った者	一級建築士 第338155号 構造設計一級建築士 第 9525号 久保田 謙三

工事名称	令和3年度(令和2)学校施設環境改善交付金 那賀町学校給食センター新築工事	日付		No.		図面番号	S019	設計番号									
図面名称	合成床板標準図	縮尺		設計		製図		校閲									
記	※A3版は71%アークとする。																
事	<table border="0"> <tr> <td>株式会社</td> <td>四電技術コンサルタント</td> </tr> <tr> <td>1級建築士事務所</td> <td>徳島県登録第71037号</td> </tr> <tr> <td>管理建築士</td> <td>片山 有史</td> </tr> <tr> <td>1級建築士登録第27193号</td> <td></td> </tr> </table>									株式会社	四電技術コンサルタント	1級建築士事務所	徳島県登録第71037号	管理建築士	片山 有史	1級建築士登録第27193号	
株式会社	四電技術コンサルタント																
1級建築士事務所	徳島県登録第71037号																
管理建築士	片山 有史																
1級建築士登録第27193号																	



角形鋼管
F値295N/mm²以下
□-350×350 ~ □-550×550 用

(財)日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0093-17」(平成30年9月21日付)

ベースパック柱脚工法設計標準図

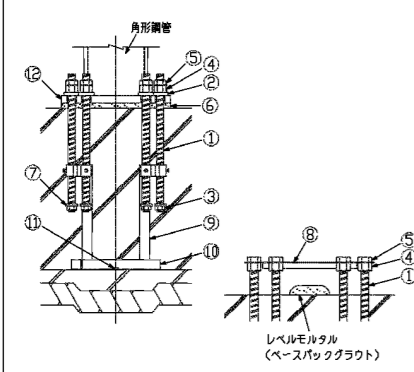
●ベースパック柱脚工法の設計は「ベースパック柱脚工法設計ハンドブック」による。

岡部株式会社 旭化成建材株式会社
TEL03(3624)5336 TEL03(3296)3515

2019年1月作成

1. 工法概要

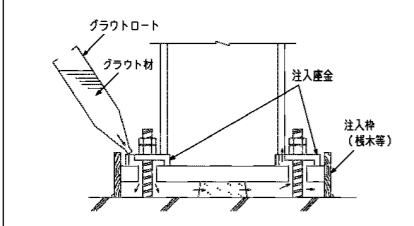
1.1 構成部材



- ① アンカーボルト
- ② 注入座金
- ③ Mナット
- ④ Dナット
- ⑤ Dナット(S)
- ⑥ ベースパックグラウト(グラウト材)
- ⑦ 定着座金
- ⑧ テンプレート
- ⑨ フレームボスト
- ⑩ フレームベース
- ⑪ ステコンアンカー(コンクリートアンカー)
- ⑫ ベースプレート

(注)上記①~⑫の構成部材はベースパック構成部品として供給される。
(注)上記⑧~⑫は現場状況により仕様異なる場合がある。

1.2 柱脚の定着方法概要

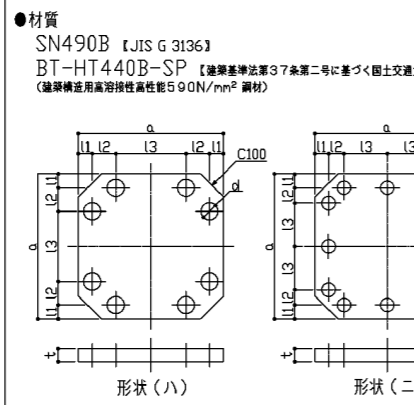


2. 柱

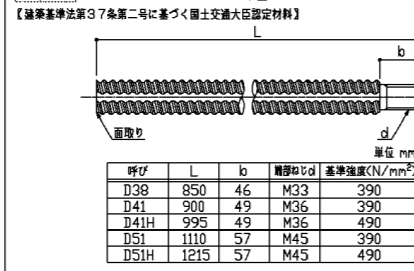
F値(N/mm ²)	鋼種	採用
235	BCP235	
	STKR400	
295	BCR295	○
	JBCR295	
	TSC295	

3. 構成部材・寸法

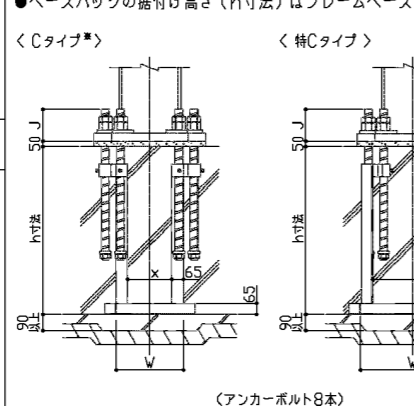
3.1 ベースプレート



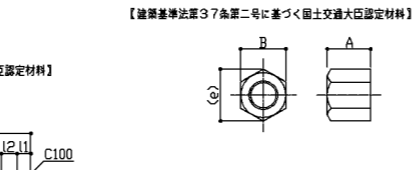
3.2 アンカーボルト(Dアンカーボルト)



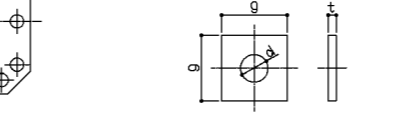
3.7 アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法



3.3 Mナット・Dナット

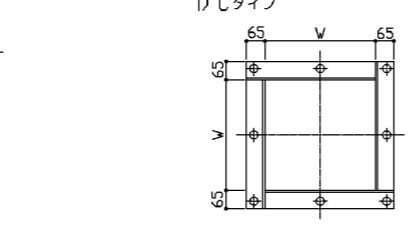


3.4 定着座金

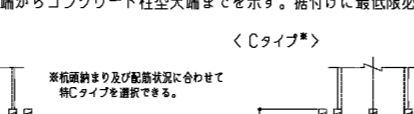


適用アンカーボルト	g	t	d	材質
D38	65	12	37	SS400
D41,D41H	70	12	37	SS490
D51,D51H	85	12	46	SS490

3.6 フレームベース



3.5 注入座金



4. コンクリート柱型

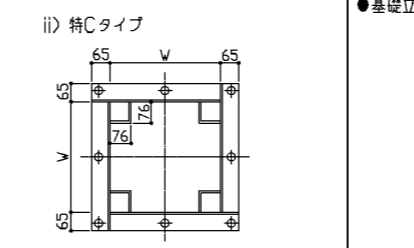
4.1 形状・材質



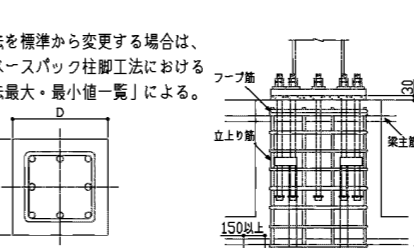
●形状
柱型寸法を標準から変更する場合は、別紙「ベースパック柱脚工法における柱型寸法最大・最小値一覧」による。

●コンクリート
普通コンクリートとし、設計基準強度は下表に記載の値とする。

4.3 基礎立上がり



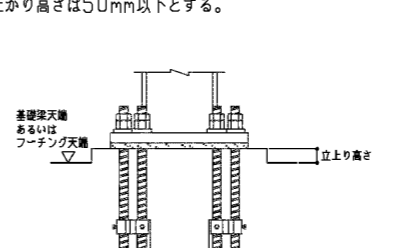
4.2 配筋



●鉄筋
SD295(D13,D16)
SD345(D22,D25)

●基礎立上がり高さは50mm以下とする。

5. 工場製作(溶接)



5.1 組立

●ベースプレートの中心線(ナット線)に柱材軸心を合わせる。

5.2 溶接方法(完全溶込み溶接)

●完全溶込み溶接とする。(JASS 6 鉄骨工事による)

5.3 完全溶込み溶接の優先標準(JASS 6 鉄骨工事 2007年版より)

溶接方法	適用板厚T(mm)	ルート間隔G(mm)		ルート間隔R(mm)		優先角度α1(°)		溶接姿勢
		標準値	許容差	標準値	許容差	標準値	許容差	
溶接アーク溶接	6~	7	-2,+0 (-3,+0)	2	-2,+1 (-2,+2)	α1:45	-2.5,+0 (-5,+0)	下向き
		9	-2,+0 (-3,+0)	2	-2,+1 (-2,+2)	α1:35	-2.5,+0 (-5,+0)	下向き
ガスシールド溶接	6~	6	-2,+0 (-3,+0)	2	-2,+1 (-2,+2)	α1:45	-2.5,+0 (-5,+0)	下向き
		7	-2,+0 (-3,+0)	2	-2,+1 (-2,+2)	α1:35	-2.5,+0 (-5,+0)	下向き

5.4 ベースプレートの予熱

●気温(鋼材表面温度)が5°C以上のベースプレートの予熱は次に示す予熱温度標準により行う。その他必要に応じて適切な予熱をする。

溶接方法	鋼種	板厚(mm)	
		40≦t≦50	50<t≦75
低水素系溶接アーク溶接	SN490B	50℃	
	BT-HT440B-SP	予熱なし	予熱なし
CECガスシールドアーク溶接	SN490B	予熱なし	予熱なし
	BT-HT440B-SP	予熱なし	予熱なし

●検査方法: 溶接部の検査は超音波探傷検査により行う。

●施工管理: 7. 本工法の施工及び施工管理参照。

6. 工事場施工

6.1 基礎工事

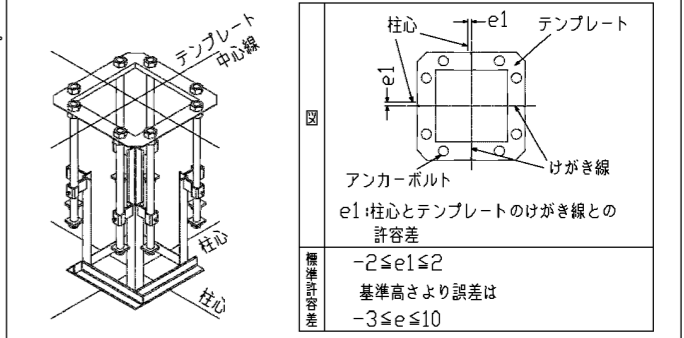
●柱脚部の捨コンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

6.2 アンカーボルト据付け

●アンカーボルト(フレーム)の組立ては、4隅のアンカーボルト4本(8本)で組立てを行う。

●フレームベースはステコンアンカーにより水平に固定する。

●位置決めは、テンプレートの中心線と地墨等の柱心を合致させることにより行い、標準許容差は下図による。



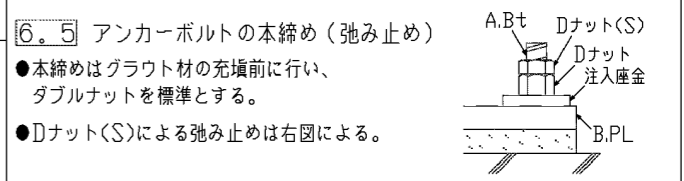
6.3 配筋およびコンクリート打設

●配筋はアンカーボルト(フレーム)との取り合いを考慮する。

●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

6.4 建方

●レベルモルタルはベースパックグラウト(グラウト材)を使用し大きさは右図による。



6.5 アンカーボルトの本締め(弛み止め)

●本締めはグラウト材の充填前に行い、ダブルナットを標準とする。

●Dナット(S)による弛み止めは右図による。

6.6 ベースパックグラウト(グラウト材)の注入

●グラウト材のカクハンは、グラウト材1袋(6kg)に対して、計量カップで1.0~1.1ℓの水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。

●グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の自重により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

7. 本工法の施工及び施工管理

●本工法は、管理者又は施工者(元請)の管理のもとで実施するものとする。

●本工法のうち6.2アンカーボルト据付け及び6.6ベースパックグラウトの注入は、ベースパック施工技術委員会によって認定された有資格者(ベースパック施工管理技術者・施工技能者)が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。

●ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作者に属する鉄骨製作管理技術者等による。

構造設計及び法適合確認を行った者

一級建築士 第338155号
構造設計一級建築士 第 9525号
久保田 謙三

採用	ベースパック記号	柱		ベースプレート								アンカーボルト		コンクリート柱型				フレームベース		最低h寸法(mm)	J寸法(mm)				
		外径(mm)	板厚(mm)	寸法(mm)								本数・呼び	基準強度(N/mm ²)	寸法 D(mm)		寸法 W(mm)		寸法 x(mm)							
		材質	形状	a	t	l1	l2	l3	d	標準フレーム	特C			立上り筋	フープ筋	標準J-A	特C	標準J-A	特C						
○	35-16R	□-350×350	t≦16	SN490B	(ハ)	630	45	65	85	330	φ70	8-D38	390	C	800	840	12-D25	D13@100	21以上	380	590	250	450	750	180
	35-19R	□-350×350	t≦19	BT-HT440B-SP	(ハ)	630	44	65	85	330	φ70	8-D38	390	C	800	840	12-D25	D13@100	21以上	380	590	250	450	750	180
	35-22R	□-350×350	t≦22	BT-HT440B-SP	(ハ)	630	44	65	85	330	φ75	8-D41	390	C	800	830	16-D22	D13@100	21以上	380	590	250	450	800	190
	35-25R	□-350×350	t≦25	BT-HT440B-SP	(ニ)	650	48	75	85	165	φ70	12-D38	390	C	850	-	16-D25	D13@100	21以上	380	-	250	-	800	180
	40-16R	□-400×400	t≦16	BT-HT440B-SP	(ハ)	700	44	65	85	400	φ75	8-D41	390	C	870	910	12-D25	D13@100	21以上	450	660	320	520	800	190
	40-19R	□-400×400	t≦19	BT-HT440B-SP	(ハ)	700	48	65	85	400	φ75	8-D41	390	C	870	900	16-D22	D13@100	21以上	450	660	320	520	800	190
	40-22R	□-400×400	t≦22	BT-HT440B-SP	(ニ)	700	48	65	85	200	φ70	12-D38	390	C	900	910	16-D25	D13@100	21以上	450	660	320	520	800	180
	40-25R	□-400×400	t≦25	BT-HT440B-SP	(ニ)	710	48	70	85	200	φ75	12-D41	390	C	900	910	16-D25	D13@100	21以上	450	660	320	520	800	190
	45-19R	□-450×450	t≦19	BT-HT440B-SP	(ニ)	750	48	65	85	225	φ70	12-D38	390	C	950	960	16-D25	D13@100	21以上	500	710	370	570	800	180
	45-22R	□-450×450	t≦22	BT-HT440B-SP	(ニ)	750	52	65	85	225	φ75	12-D41	390	C	1000	1000	20-D25	D13@100	21以上	500	710	370	570	800	190
	45-25R	□-450×450	t≦25	BT-HT440B-SP	(ニ)	750	52	65	85	225	φ75	12-D41H	490	C	1000	1000	24-D25	D13@100	24以上	500	710	370	570	850	200
	45-28R	□-450×450	t≦28	BT-HT440B-SP	(ニ)	770	60	75	110	200	φ75	12-D51	390	C	1000	-	24-D25	D13@100	24以上	460	-	330	-	950	230
	50-19R	□-500×500	t≦19	BT-HT440B-SP	(ニ)	820	52	65	85	260	φ75	12-D41	390	C	1000	1030	20-D25	D13@100	21以上	570	780	440	640	800	190
	50-22R	□-500×500	t≦22	BT-HT440B-SP	(ニ)	820	60	65	85	260	φ75	12-D41H	490	C	1050	1050	24-D25	D16@100	24以上	570	780	440	640	850	200
	50-25R	□-500×500	t≦25	BT-HT440B-SP	(ニ)	820	60	75	110	225	φ75	12-D51	390	C	1050	1050	24-D25	D16@100	24以上	510	750	380	610	950	230
	50-28R	□-500×500	t≦28	BT-HT440B-SP	(ニ)	820	60	75	110	225	φ75	12-D51H	490	C	1140	-	32-D25	D16@100	24以上	510	-	380	-	1050	235
	55-19R	□-550×550	t≦19	BT-HT440B-SP	(ニ)	840	52	65	85	270	φ75	12-D41H	490	C	1100	1100	24-D25	D16@100	24以上	590	800	460	660	850	200
	55-22R	□-550×550	t≦22	BT-HT440B-SP	(ニ)	900	60	65	85	300	φ75	12-D41H	490	C	1100	1120	24-D25	D16@100	24以上	650	860	520	720	850	200
	55-25R	□-550×550	t≦25	BT-HT440B-SP	(ニ)	900	60	75	110	265	φ75	12-D51	390	C	1100	1100	32-D25	D16@100	24以上	590	830	460	690	950	230
	55-28R	□-550×550	t≦28	BT-HT440B-SP	(ニ)	900	65	75	110	265	φ75	12-D51H	490												